

# 2021年 県政世論調査

## 調査結果報告書



# 目次

## 第Ⅰ章 調査概要

### 1 調査概要

1) 調査目的	1
2) 調査対象・地域	1
3) 調査方法	1
4) 標本抽出	1
5) 発送数・回収数	1
6) 調査実施期間	1
7) 調査主体	1
8) 報告書の見方	2
9) 分析における地域区分	2
10) 回答者属性	2

## 第Ⅱ章 調査結果要旨

### 1 日常生活の満足度、県政全般の満足度・重要度について

日常生活の満足度	6
県政全般の満足度・重要度	6

### 2 分野別取組について

防災対策について	6
だれもが活躍できる社会づくりについて	6
健康づくりについて	7
環境について	7
県内就職対策、県外サービスについて	7
有機農産物について	7
県産品の利用について	8
少子化・人口減少対策について	8
地域コミュニティについて	8
新型コロナウイルス感染症対策について	8
デジタル化の推進について	9
SDGs(持続可能な開発目標)について	9
県広報誌、県職員について	9

## 第Ⅲ章 調査結果

### 1 日常生活の満足度

日常生活の満足度	10
日常生活の優先順位	16

### 2 県政全般の満足度・重要度

県政項目別満足度	20
県政全般の重要度	21
県政の総合的な満足度	26

### 3 分野別取組について

防災対策について	28
だれもが活躍できる社会づくりについて	40
健康づくりについて	53
環境について	59
県内就職対策、県外サービスについて	65
有機農産物について	68
県産品の利用について	75
少子化・人口減少対策について	77
地域コミュニティについて	82
新型コロナウイルス感染症対策について	86

デジタル化の推進について .....	88
SDGs(持続可能な開発目標)について.....	90
県広報誌、県職員について.....	94
調査票.....	巻末



## I 調査概要

# 調査概要

## 1. 調査目的

本調査は、県の政策に対する県民の満足度や、日常生活や意識の変化などを定期的に把握し、県政運営のための基礎資料とすることを目的とする。

## 2. 調査対象・地域

長崎県内に居住する満 18 歳以上の個人

## 3. 調査方法

郵送による自記入式調査、及びネット回答調査併用

## 4. 標本抽出

各市町住民基本台帳による等間隔無作為抽出（2020 年年齢別推計人口により割付）

	総数	10代 (18・19歳)	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳 以上	対象人口	比率 (%)	割付 送付数
長崎市	406,313	6,917	35,945	37,471	50,514	51,708	60,661	55,774	50,595	349,585	31.5%	945
佐世保市	243,808	4,680	20,336	25,043	31,186	29,441	34,032	32,974	27,775	205,467	18.5%	556
島原市	43,046	677	2,423	3,826	5,116	5,531	6,857	6,269	5,731	36,430	3.3%	98
諫早市	133,962	2,502	9,937	13,674	17,915	17,371	19,762	17,089	13,680	111,930	10.1%	303
大村市	95,426	2,064	8,556	11,032	13,308	11,713	12,216	10,337	7,813	77,039	6.9%	208
平戸市	28,999	414	1,238	2,162	2,915	3,741	5,155	4,754	4,533	24,912	2.2%	67
松浦市	21,416	361	1,319	1,894	2,311	2,556	3,730	3,121	2,957	18,249	1.6%	49
対馬市	28,659	449	1,243	2,549	3,369	3,479	5,188	4,471	3,825	24,573	2.2%	66
壱岐市	25,054	460	1,006	2,090	3,028	2,934	3,973	3,865	3,700	21,056	1.9%	57
五島市	34,563	514	1,234	2,699	3,644	4,552	6,571	5,320	5,495	30,029	2.7%	81
西海市	26,361	446	1,731	2,303	2,722	3,148	4,401	3,919	4,280	22,950	2.1%	62
雲仙市	41,099	686	2,251	3,720	4,580	5,529	7,105	5,396	5,668	34,935	3.2%	95
南島原市	42,195	701	1,584	3,253	4,413	5,436	7,608	6,729	6,599	36,323	3.3%	99
長与町	41,319	900	3,357	4,427	5,656	5,566	5,589	4,899	3,637	34,031	3.1%	92
時津町	29,231	733	2,457	3,223	4,197	3,474	3,729	3,543	2,313	23,669	2.1%	64
東彼杵町	7,712	140	363	665	842	1,004	1,400	1,168	1,096	6,678	0.6%	18
川棚町	13,394	226	872	1,274	1,723	1,654	2,059	1,907	1,532	11,247	1.0%	30
波佐見町	14,335	257	982	1,505	1,695	1,798	2,221	1,901	1,585	11,944	1.1%	32
小値賀町	2,273	30	33	193	182	232	505	412	448	2,035	0.2%	6
佐々町	13,898	261	1,090	1,556	1,909	1,507	1,872	1,766	1,165	11,126	1.0%	30
新上五島町	17,595	249	550	1,154	1,920	2,546	3,436	2,879	2,821	15,555	1.4%	42
長崎県	1,310,658	23,667	98,507	125,713	163,145	164,920	198,070	178,493	157,248	1,109,763	100.0	3,000

## 5. 発送数・回収数

発送数：3,000

回収数：1,930（回収率 64.3%）

## 6. 調査実施期間

2021年9月6日（月）～2021年10月8日（金）（33日間）

## 7. 調査主体

長崎県総務部県民センター

## 8. 報告書の見方

- (1) 比率は百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。このため、百分率の計が 100%にならない場合がある。
- (2) 基数となる実数は n として掲載した。その比率は件数を 100%として算出した。
- (3) 1 人の回答者が複数回答を行う設問では、その比率の合計が 100%を上回ることがある。
- (4) 図表中には、回答者数が非常に少ない場合がある。このような場合には、回答比率の数字が動きやすく、厳密な比較をすることが難しいので、回答の傾向を見る程度になる。
- (5) 図表の各項目は表示の関係上省略して表示する場合がある。

## 9. 分析における地域区分

集計データの地域分析においては、県内を 5 地域に区分し、その地域特性等について考察を行った。地域区分については以下のとおりとした。

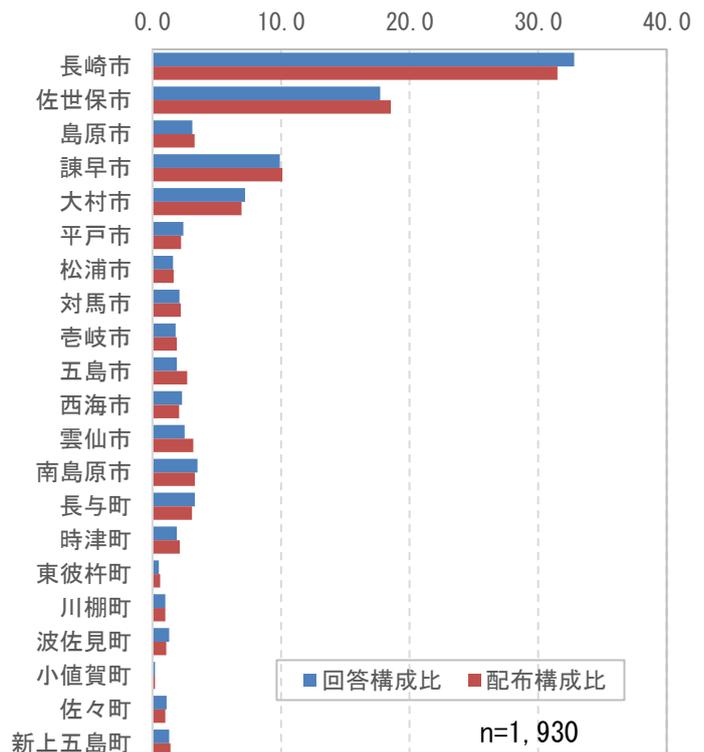
地域	市 町
県南地域	長崎市、西海市、長与町、時津町
県央地域	諫早市、大村市
県北地域	佐世保市、平戸市、松浦市、東彼杵町、川棚町、波佐見町、佐々町
島原半島地域	島原市、雲仙市、南島原市
離島地域	対馬市、壱岐市、五島市、小値賀町、新上五島町

## 10. 回答者属性

### 【居住地】

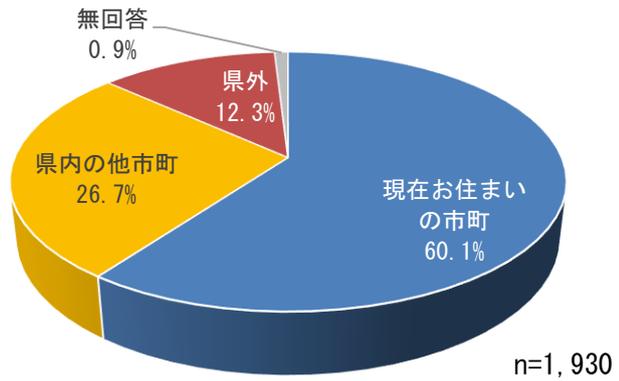
居住地は、「長崎市」が 32.8%で最も多く、次いで「佐世保市」17.7%、「諫早市」9.9%と続いており、ほぼ人口割合（配布割合）に応じた回答割合となっている。

	市町名	回答数	%
1	長崎市	634	32.8
2	佐世保市	342	17.7
3	島原市	60	3.1
4	諫早市	191	9.9
5	大村市	139	7.2
6	平戸市	47	2.4
7	松浦市	30	1.6
8	対馬市	40	2.1
9	壱岐市	34	1.8
10	五島市	36	1.9
11	西海市	44	2.3
12	雲仙市	49	2.5
13	南島原市	68	3.5
14	長与町	63	3.3
15	時津町	37	1.9
16	東彼杵町	9	0.5
17	川棚町	19	1.0
18	波佐見町	26	1.3
19	小値賀町	4	0.2
20	佐々町	21	1.1
21	新上五島町	25	1.3
	無回答	12	0.6
	合計	1,930	100



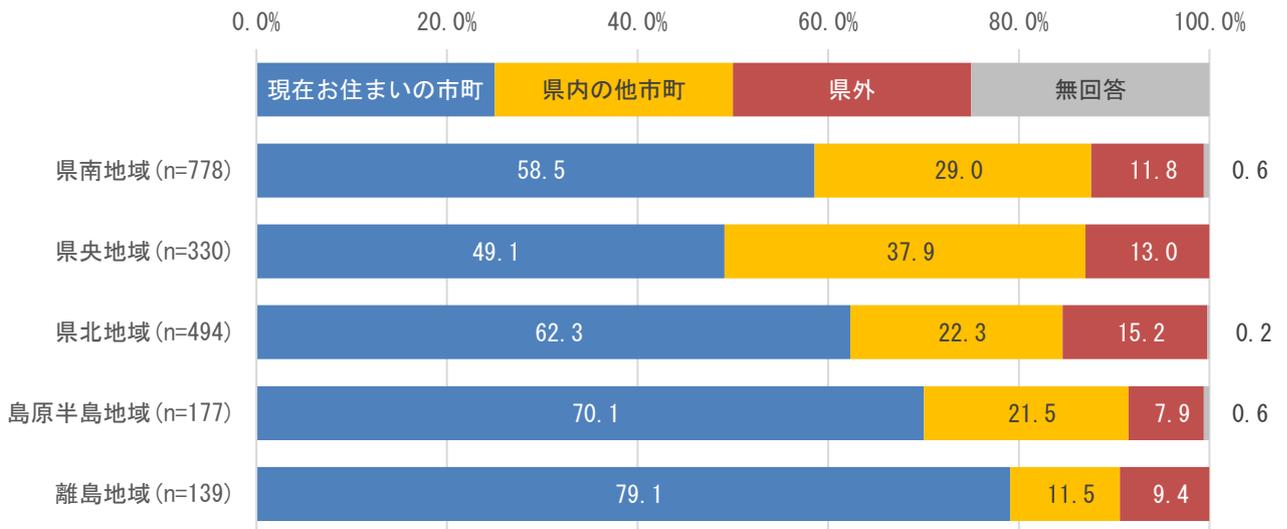
## 【出身地】

出身地は、「現在お住まいの市町」が60.1%で最も多く、次いで「県内の他市町」26.7%、「県外」12.3%となっており、全体の86.8%が本県出身者である。このことから県内在住者の多くが本県出身者であると推測できる。



## 【居住地別：出身地】

出身地に現在居住している人の割合をみると、離島地域の79.1%が最も高く、次いで島原半島地域が70.1%、県北地域が62.3%で続いている。島原半島地域・離島地域は他地域よりも出身地に住み続ける傾向が高いことがうかがえる。また、県南地域・県央地域・県北地域・島原半島地域においても出身地に居住している人の割合が増えている。

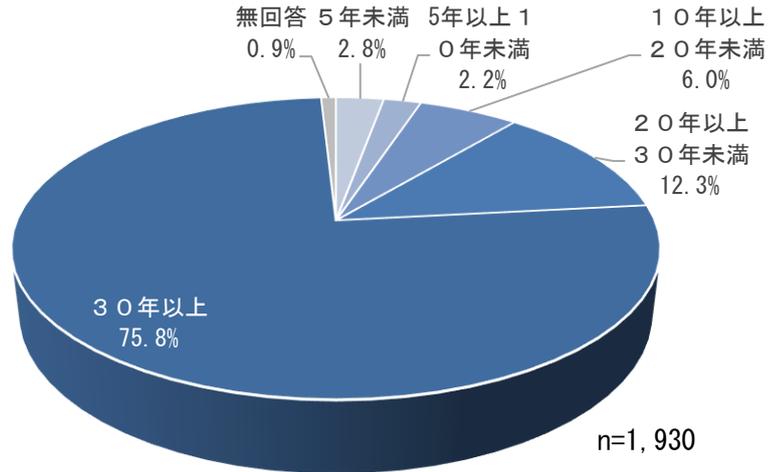


## 平成30年調査結果



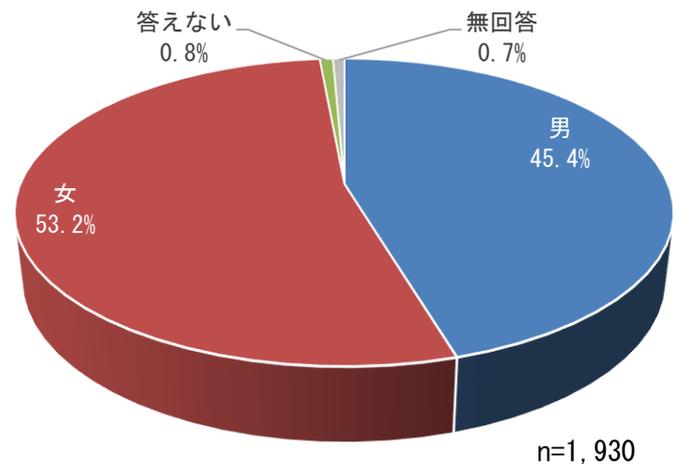
## 【居住年数】

居住年数は、「30年以上」が75.8%で最も多く、次いで「20年以上30年未満」12.3%、「10年以上20年未満」6.0%となっており、全体の94.1%が10年以上の居住者である。



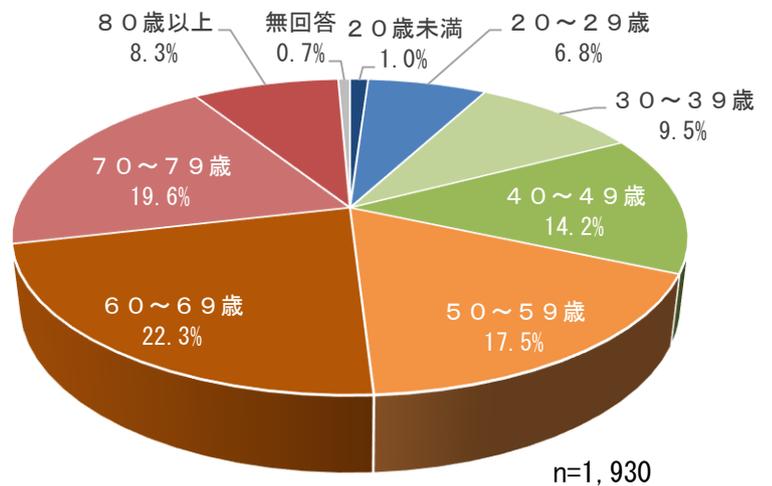
## 【性別】

性別は、女性53.2%、男性45.4%と女性の割合が7.8ポイント高くなっている。



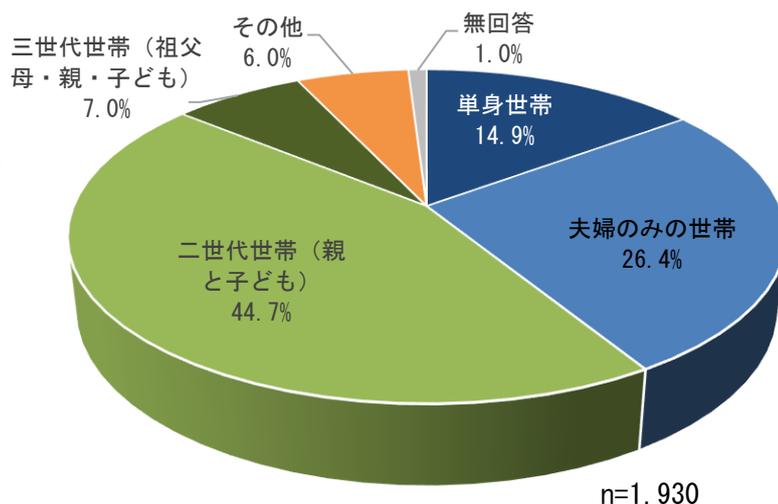
## 【年齢】

年齢は、「60～69歳」が22.3%で最も多く、次いで、「70～79歳」19.6%、「50～59歳」17.5%、「40～49歳」14.2%の順で続いており、生産年齢人口（18～59歳）は49.0%、高齢者人口（60歳以上）は50.2%となっている。



## 【家族形態】

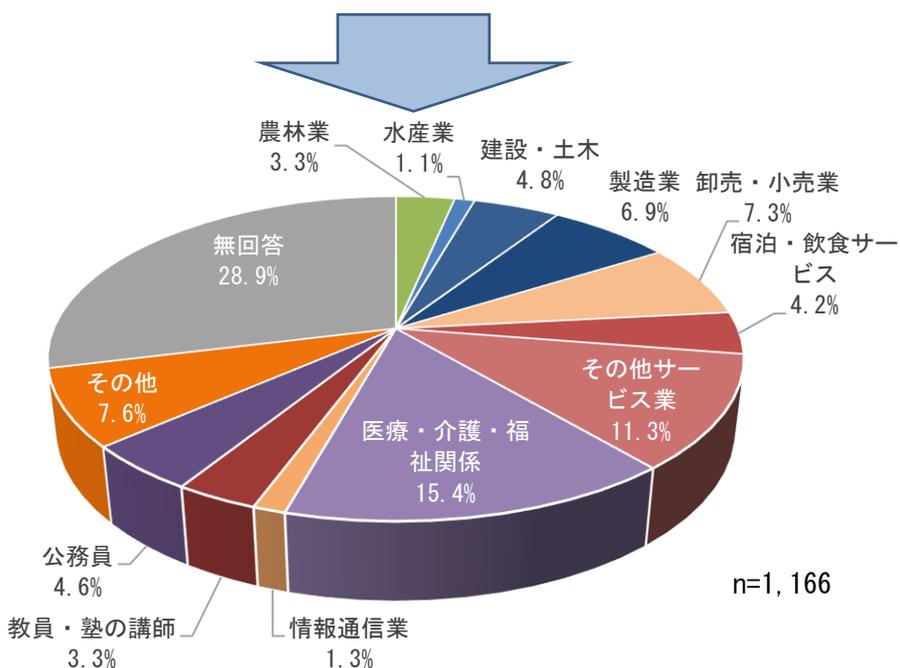
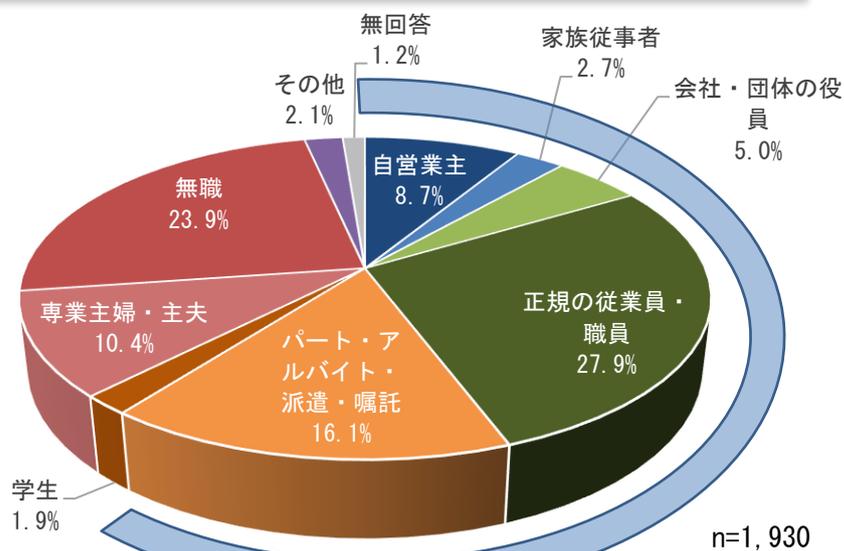
世帯種別は、「二世帯世帯（親と子ども）」が44.7%で最も多く、次いで、「夫婦のみの世帯」26.4%、「単身世帯」14.9%、「三世帯世帯（祖父母・親・子ども）」7.0%の順となっている。



## 【職業・業種】

職業は、「正規の従業員・職員」が27.9%で最も多く、次いで、「無職」が23.9%、「パート・アルバイト・派遣・嘱託」が16.1%、「専業主婦・主夫」が10.4%の順で続いている。

また、有職者の業種は「医療・介護・福祉関係」が15.4%で最も多く、次いで、「その他サービス業」が11.3%、「その他」が7.6%、「卸売・小売業」が7.3%、「製造業」が6.9%の順で続いている。



## Ⅱ 調査結果要旨

## 日常生活の満足度、県政全般の満足度・重要度について

### 【日常生活の満足度】

日常生活の総合的な満足度は、満足度が不満度を大きく上回っている。  
分野別では「住んでいる家（住宅）」や「自分および家族の健康」は満足度が高く、「老後・将来の生活設計」、「収入」は不満度が高くなっており、前回調査と同じ傾向を示しているが、今回調査ではコロナ禍による外出自粛などの影響が不満度で「娯楽・レジャー」が増加している。

### 【県政全般の満足度・重要度】

県民の考える政策の重要度の上位項目は、前回調査と比べ項目の入れ替わりや順位の変動がほぼなく、「人口減少対策」が1位となり、「福祉の充実」は2位、「雇用対策」が3位、「保健医療介護の充実」が4位、前回6位の「子どもや子育ての支援」は5位に順位を上げている。  
また、県政の総合的な満足度は、前回調査より減少しているものの、不満度は満足度以上に減少幅が大きく、「どちらともいえない」が約6割と判断を保留する傾向が高くなっている。

## 分野別取組について

### 【防災対策について】

自然災害に備えて、「学校や公園など身近な避難場所を確認している」が5割強、以下「非常時持ち出し品（懐中電灯、ラジオ、衣類など）を準備している」、「非常食や飲料水を準備している」が上位で続いている。

また、自らの命を守る（自助）力を高めるために、身に付けたいことは、「日頃から備えておくべき備蓄品の知識」、「防災情報を入手する手段」、「過去の災害例や教訓」と続いている。

また、消防団へは9割弱が入団しないと回答しており、その理由として「体力がない」、「職業・学業・家事・育児との両立が困難」、「活動内容がよくわからない」となっており、消防団への加入者を増加させていくためには「消防団活動の重要性などについて、もっと積極的なPRを行い、地域住民の消防団活動への理解を高める」、「事業所（勤務先）に消防団活動への理解を求めるなど、サラリーマンの団員でも活動に参加しやすくする」、「報酬・手当の増額等処遇を改善する」が上位項目となった。



### 【だれもが活躍できる社会づくりについて】



男女の不平等について、5割強が「ある」と回答しており、一番不平等に感じるのは「社会通念、慣習・しきたり」で約4割となっている。

高齢期を迎えたときの希望する働き方は「自由な時間にできる仕事、家でできる仕事」、行いたいことは「趣味」「可能な限り働きたい」と続いている。

また、「障害のある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例」・「合理的配慮」・「ヘルプマーク・ヘルプカード」の認知度は何れも約4割、「LGBT」の認知度は7割と認知が進んでいるものの、「アライ」の認知度は1割にとどまっている。

また、性的少数者への差別をなくすための取り組みは「学校教育」、「周知・啓発イベント」、「法律や条例の制定」が上位項目となっている。

## 【健康づくりについて】

健康上の理由での日常生活の影響は「全くない」が4割弱、これに「多少あるが気にならない」を加えると7割弱が問題ないとしている。

また、健康維持・増進のために行っていることは「定期的な健康診断」がトップ、これは活動のきっかけが「健康診断、がん検診等の結果」、「病気やけがをした」が上位であることとも一致する。

一方、県の健康づくりのキャッチフレーズである「ながさき3MYチャレンジ」の認知度は2割弱となっている。



## 【環境について】

地球温暖化対策である「緩和策」や「適応策」についての認知度は6割、5年以内の電動自動車等の購入意向は1割弱となっている。

「4R」の認知度は約4割で、普段行っていることは「買い物にはマイバッグを持参する」、「ごみを正しく分別する」、「詰め替え用の製品を選ぶ」が上位項目となっており、「食品ロス」の認知度は8割強で、普段行っていることは「食べきれなかった食材を冷凍などをして保存する」、「食べきれない食品を買いすぎない」が上位項目となっている。



## 【県内就職対策、県外サービスについて】

若者の県内就職選択を増やすためには「県内企業の給与や賞与等の処遇改善」、「県内企業の福利厚生改善（休日の増加や家賃補助など）」、「大手企業の誘致」が上位項目となっている。

また、県外でのサービスの利用については7割強が利用しておらず、利用者2割が受けているサービスについては、「小売サービス（買い物）」が5割弱、「観劇（映画等含む）」が3割強となっている。



## 【有機農産物について】



有機農産物への関心度は6割、そのイメージは「安心安全」が7割弱、以下「健康に良い」、「環境に良い」となっている。

一方、有機農産物の購入は5割、購入先は「直売所・朝市」がトップ、「スーパーマーケット」、「生協等の共同購入」と続き、購入品は「野菜」が9割弱となっている。

また、有機農産物の購入の際困っていることは「値段が高い（自分の予算と比較して）」が4割弱でトップとなっている。情報入手の方法は「口コミ」、「インターネット」、「雑誌」が上位項目となり、今後の購入意向は「現状維持」と「増やしたい」で6割強となっている。

## 【県産品の利用について】



「長崎四季畑」認証制度の認知度は2割弱、認知者の購入割合は3割強にとどまり、買わない理由としては「購入できるお店が分からない」が5割強でトップ、以下「認証された商品が分からない」が続いている。

一方、「長崎県産米」の認知度は9割弱、認知者の購入割合は8割弱となっている。買わない理由としては「他県産のものの方が美味しい」、「値段が高い」と続いている。

## 【少子化・人口減少対策について】

未婚率が少子化の要因と「知っている」のは8割弱となっており、県の支援策として認知されているのは「婚活イベント」がトップ、以下「結婚支援策の周知」、「婚活についての相談窓口」と続いている。

また、人口減少の歯止めとして強化する取り組みは「良質な働く場所の創出・確保（若者の雇用対策、企業誘致等）」が最も多く、「結婚・出産・子育てのしやすい環境の整備」、「移住の促進やU・Iターンの情報発信と受入体制の整備」と続いている。



## 【地域コミュニティについて】



地域での活動に参加しているのは「自治会」が5割弱で最も多く、以下「PTA」、「子ども会」と続いている。

一方、「以前参加していたが、現在は参加していない」「参加していない」が4割強あり、その理由は「時間がないから」、「体力に自信がないから」、「人間関係がわずらわしいから」が上位となっている。

また、活動に参加しやすくするためには「気軽に参加できる体制があれば（会員制にしない等）」、「好きな時間や参加頻度を選べれば」、「新しい人が参加しやすい雰囲気があれば」が上位項目となった。

## 【新型コロナウイルス感染症対策について】



コロナに関する情報を得る媒体は「テレビ」が9割で最も多く、以下「新聞」、「SNS（TwitterやLINEなど）」と続いている。

また、自身のコロナ対策強化のきっかけとして重視するのは「感染者数の増加」が最も多く、以下「病床のひっ迫」、「自治体（県、市町）からの呼びかけ」と続いている。

## 【デジタル化の推進について】

県民の豊かで質の高い生活を実現するために、ICTを活用することが必要だと思うことは「高齢者等見守り支援強化」が最も多く、以下「子育てしやすい環境の整備」、「新型コロナウイルス感染拡大を防ぐ健康観察（管理）アプリの普及」の順で続いている。



## 【SDGs（持続可能な開発目標）について】

SDGs に対する現在の取り組みは「買い物には、マイバッグを利用している」が最も多く、以下「食品は、食べきれる量・必要な量だけ購入している」、「シャワーをこまめに止めるなど、節水を心がけている」と続いている。

一方、「取り組んでいない」は4.5%でその理由は、「取り組み方がわからない」が最も多い。

今後の取り組みは「買い物には、マイバッグを利用したい」が最も多く、次いで「食品は、食べきれる量・必要な量だけ購入したい」、「シャワーをこまめに止めるなど、節水を心がけたい」の順で続いている。

一方、「取り組みたくない」は1.2%でその理由は、「SDGsに興味がない」が最も多くなっている。



## 【県広報誌、県職員について】



県の広報誌「つたえる県ながさき」を読んでいるかについては「興味がある内容は読む」が最も多く、以下「読んだことがない」、「いつも読む」の順となっており、「読んでいる」（「いつも読む」+「興味がある内容は読む」）は7割弱であった。

また、県の職員が持つべき意識や能力は「柔軟性・民間的な意識」が最も多く、以下「県民へのサービス意識」、「問題認識能力・問題解決能力」の順で続いている。



## Ⅲ 調査結果

# 1. 日常生活の満足度

県民の日常生活や意識の変化を定期的に把握し、今後の県政運営のための基礎資料とするため、日常生活の満足度と現在の日常生活の総合的な満足度についてお尋ねしました。

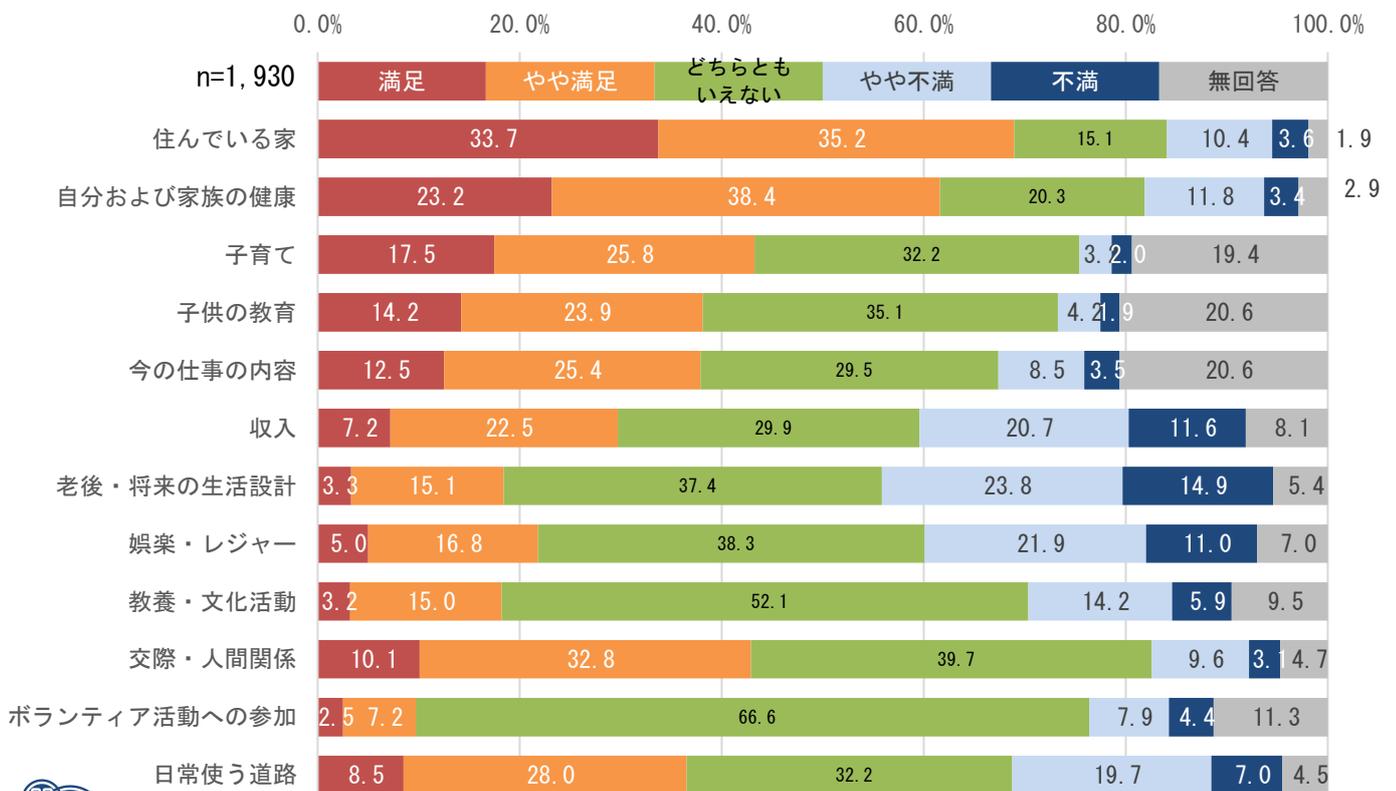
今回の調査で、日常生活の総合的な満足度は、満足度が不満度を大きく上回っており、前回調査に比べやや高くなっています。

分野別では「住んでいる家(住宅)」や「自分および家族の健康」は満足度が高く、「老後・将来の生活設計」、「娯楽・レジャー」、「収入」は不満度が高くなっています。

## 【日常生活の満足度】

問 1

日常生活についての満足度についてお聞きます。  
(それぞれ該当するものに○を1つ)



問 2

現在の日常生活の総合的な満足度



## 【日常生活の総合的な満足度】

日常生活の総合的な満足度は、「満足」「やや満足」の合計（満足度）が44.2%、「やや不満」「不満」の合計（不満度）が12.4%と満足度が不満度を大きく上回っている。

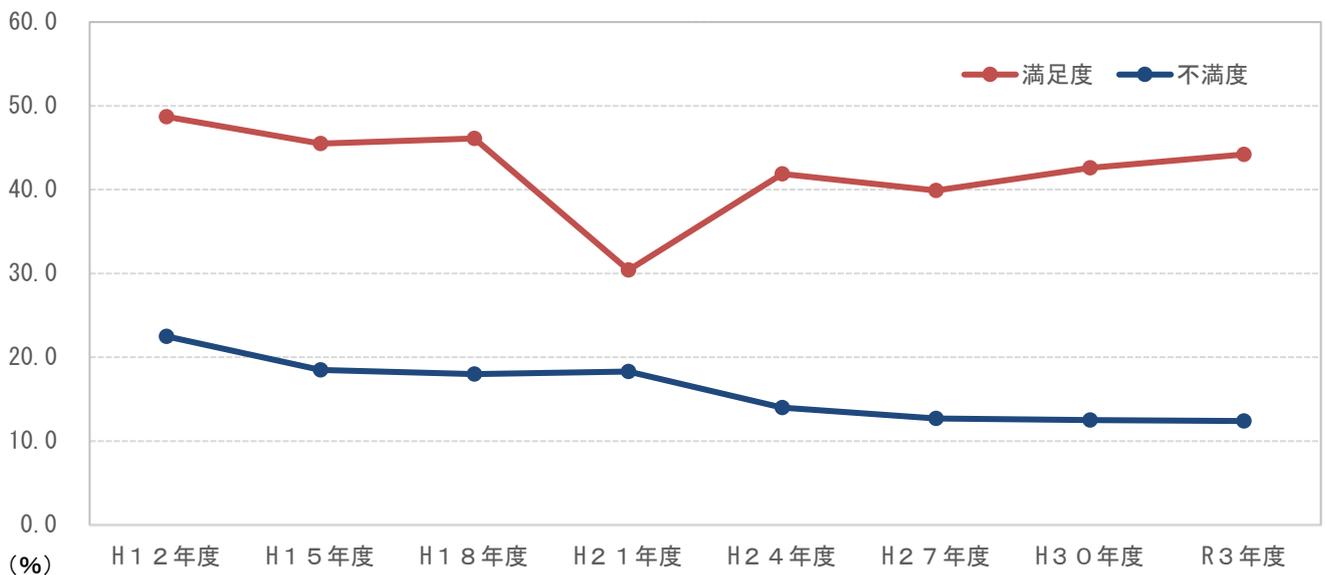
### 〔経年比較〕

前回調査と比較すると満足度は1.6ポイント増加し、不満度はほぼ前回と変わらない。また、「どちらともいえない」は0.8ポイント増加し、「無回答」は2.2ポイント減少している。

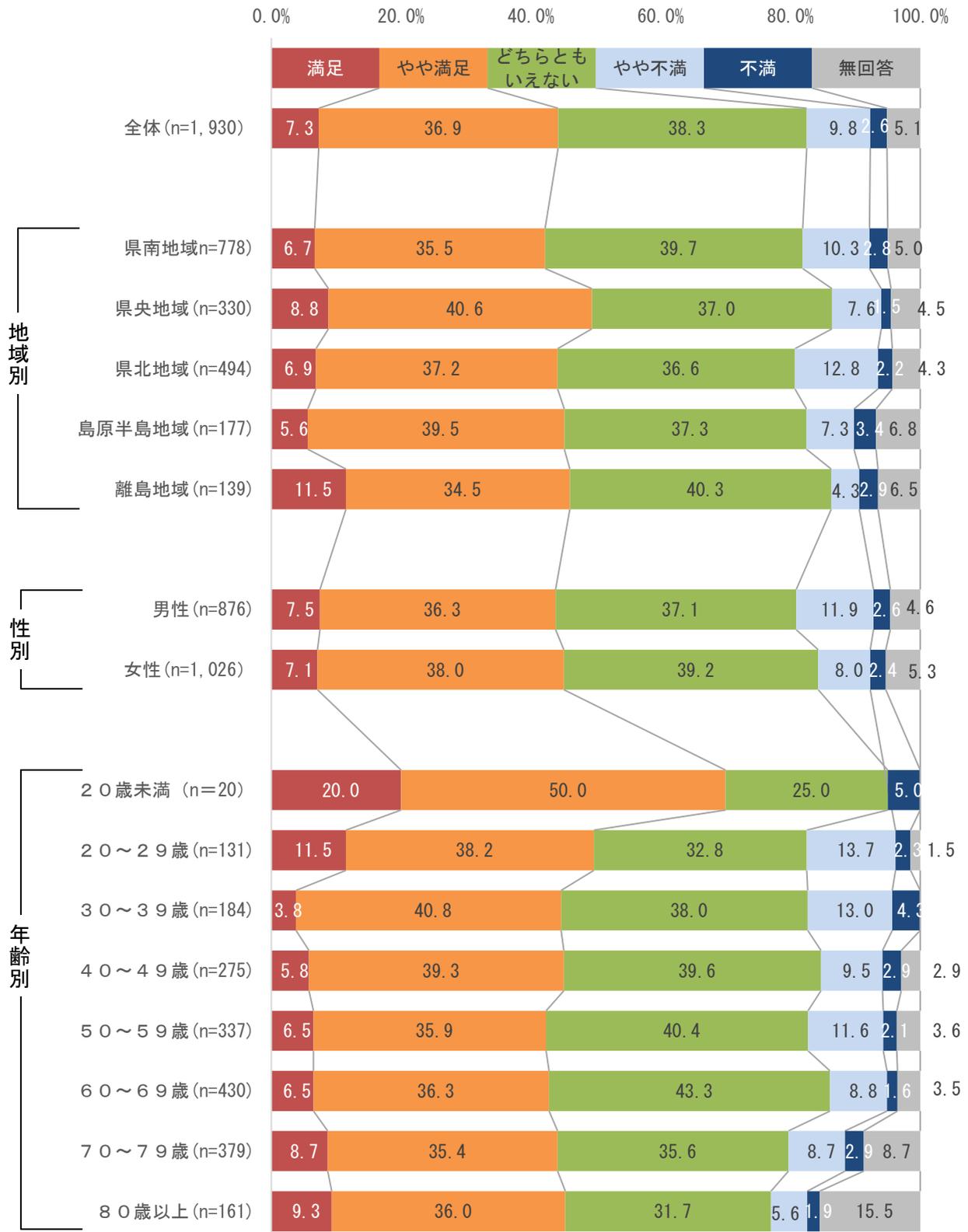
平成12年度からの経年変化をみると、満足度は48.7%から平成21年度の調査で大きく落ち込んだが、その後は40%前半で推移している。また、不満度は一貫して減少傾向にあり、今回の調査結果が最小値となっている。

一方、「どちらともいえない」は27.7%から38.3%と増加し、「無回答」は1.1%から5.1%に増加しており、満足・不満とするよりも判断を保留する傾向が増えている。

### 【日常生活満足度の経年比較】



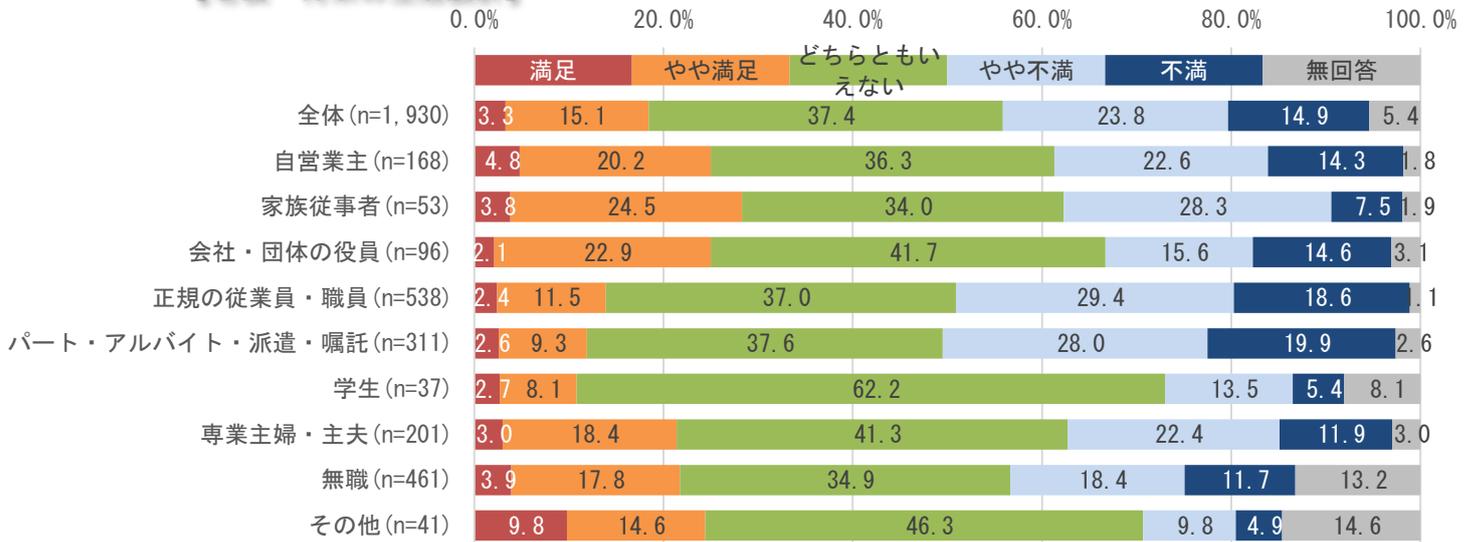
【地域別・性別・年齢別日常生活満足度の比較】



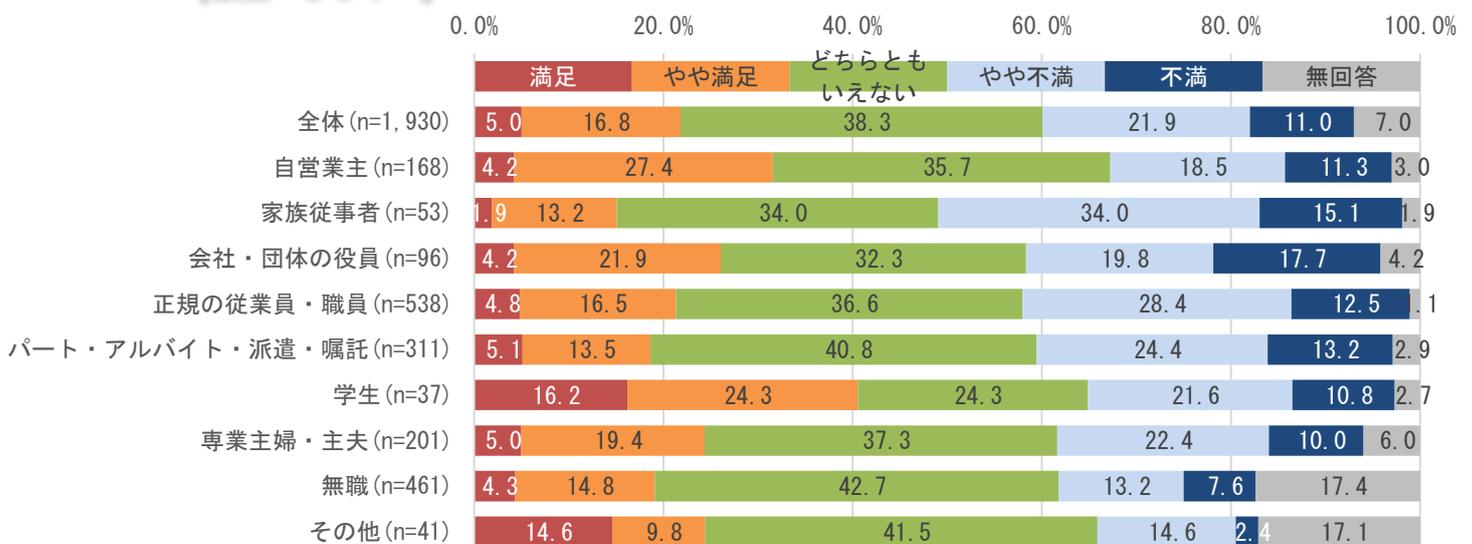
## 【職業の項目別日常生活満足度】

日常生活の不満足度が上位の、「老後・将来の生活設計」、「娯楽・レジャー」、「収入」を職業別に見ると、「老後・将来の生活設計」、「収入」は「正規の従業員・職員」「パート・アルバイト・派遣・嘱託」の不満足度が高く、「娯楽・レジャー」は「家族従事者」の不満足度が高くなっている。

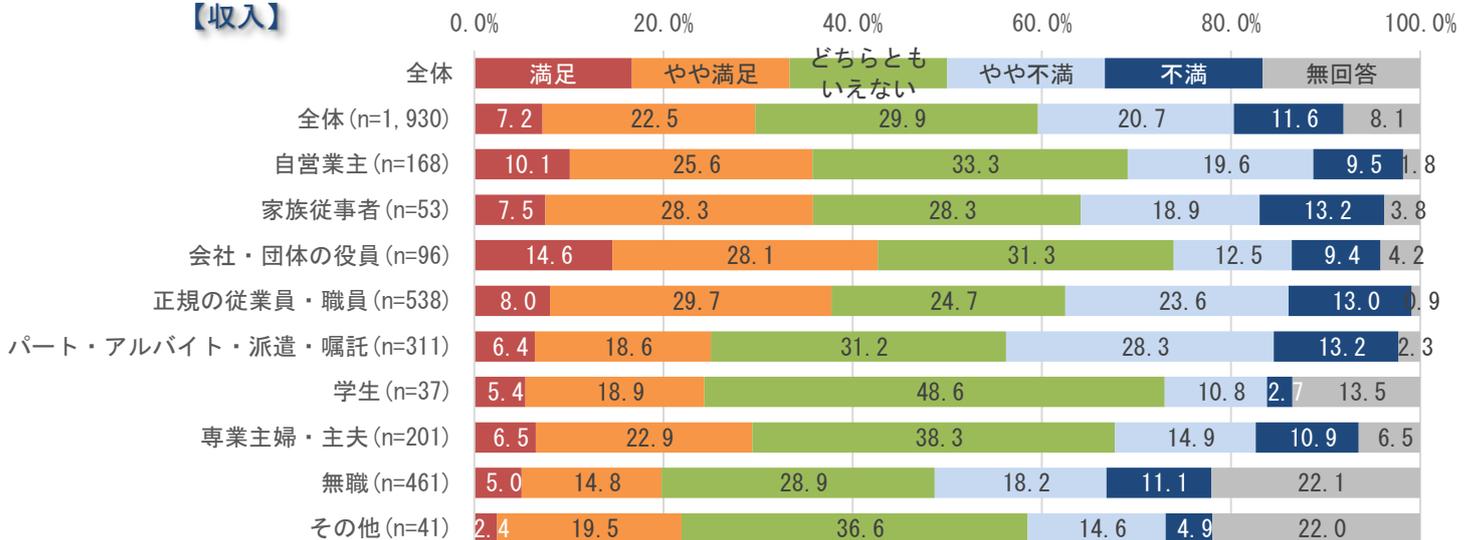
### 【老後・将来の生活設計】



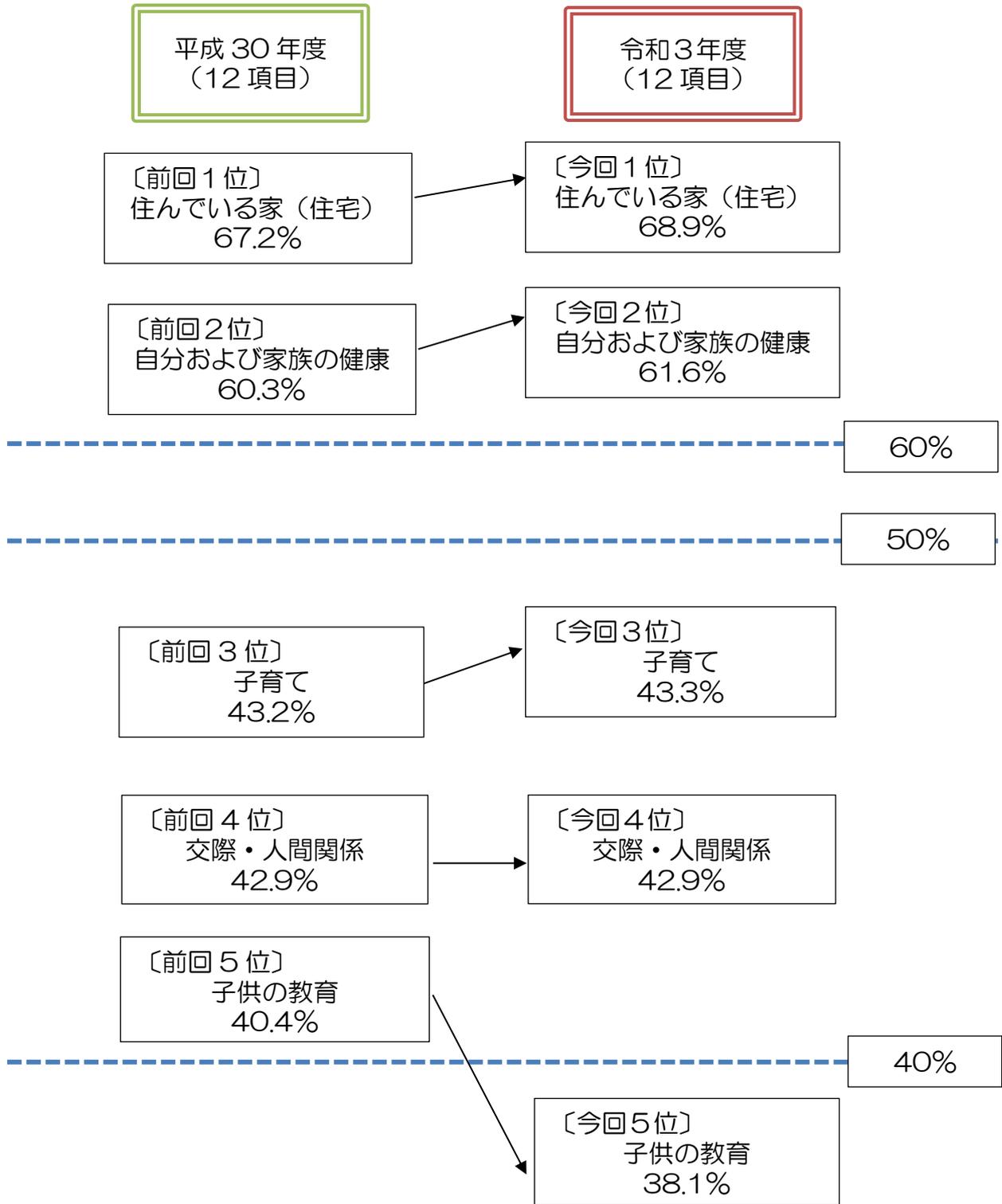
### 【娯楽・レジャー】



### 【収入】



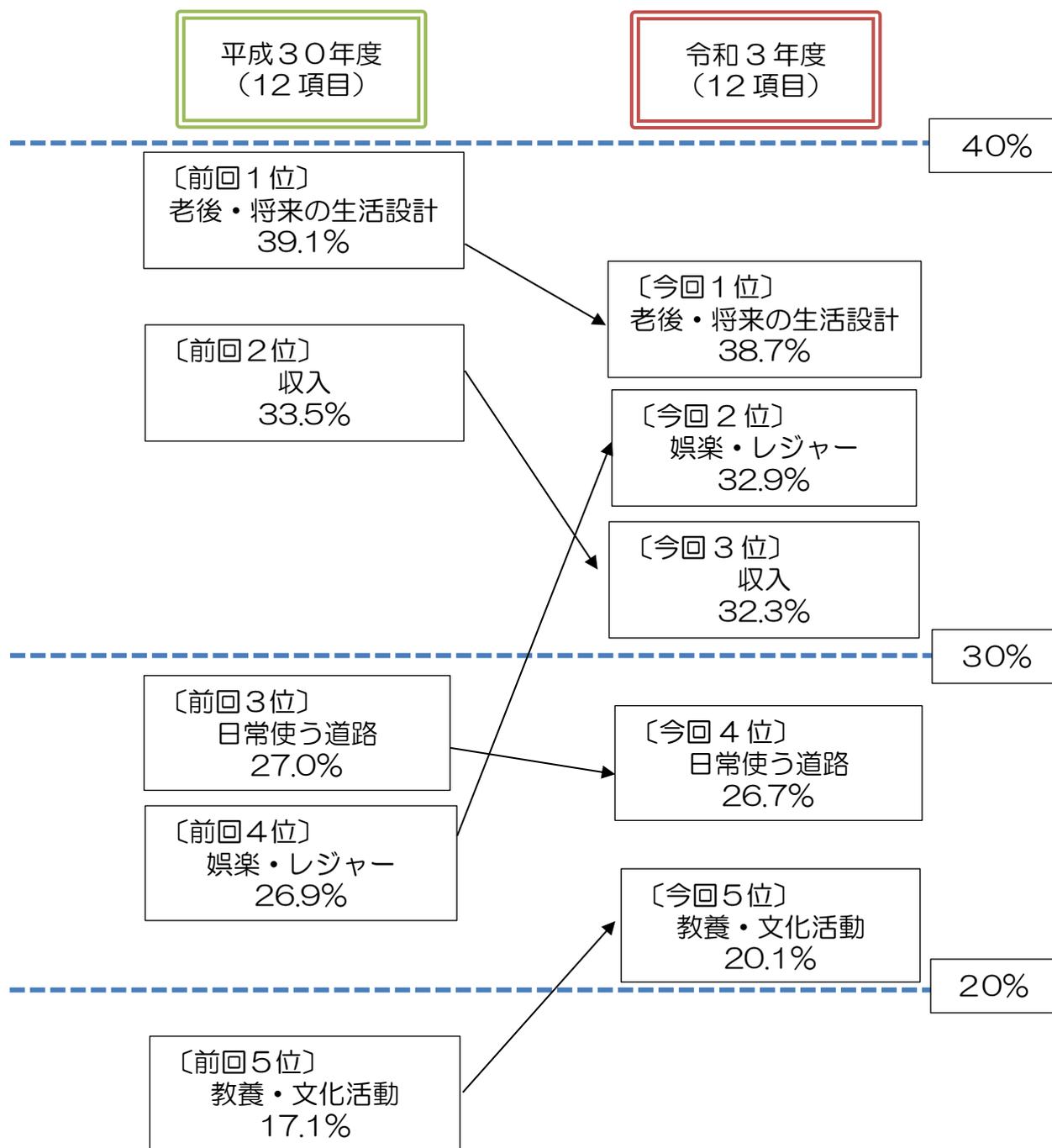
【「日常生活の満足度」上位5項目の前回調査との比較】



日常生活の満足度上位5項目の前回調査との比較では順位の変動はなく、上位3項目「住んでいる家」、「自分および家族の健康」、「子育て」はやや満足度が上がり、4位項目の「交際・人間関係」は数値の変化はない。

満足度が減少したのは「子供の教育」が2.3ポイント減少となっている。

【「日常生活の不満度」上位5項目の前回調査との比較】



日常生活の不満度上位5項目の前回調査との比較では、順位の変動は、前回4位項目の「娯楽・レジャー」が2位に上り、前回2位の「収入」・3位の「日常使う道路」が3位4位へと繰り下がっている。

不満度が増加したのは「娯楽・レジャー」が6.0ポイント「教養・文化活動」が3.0ポイント増加しており、これはコロナ禍での外出自粛や休校・リモート授業・施設閉鎖などが影響したものと考えられる。

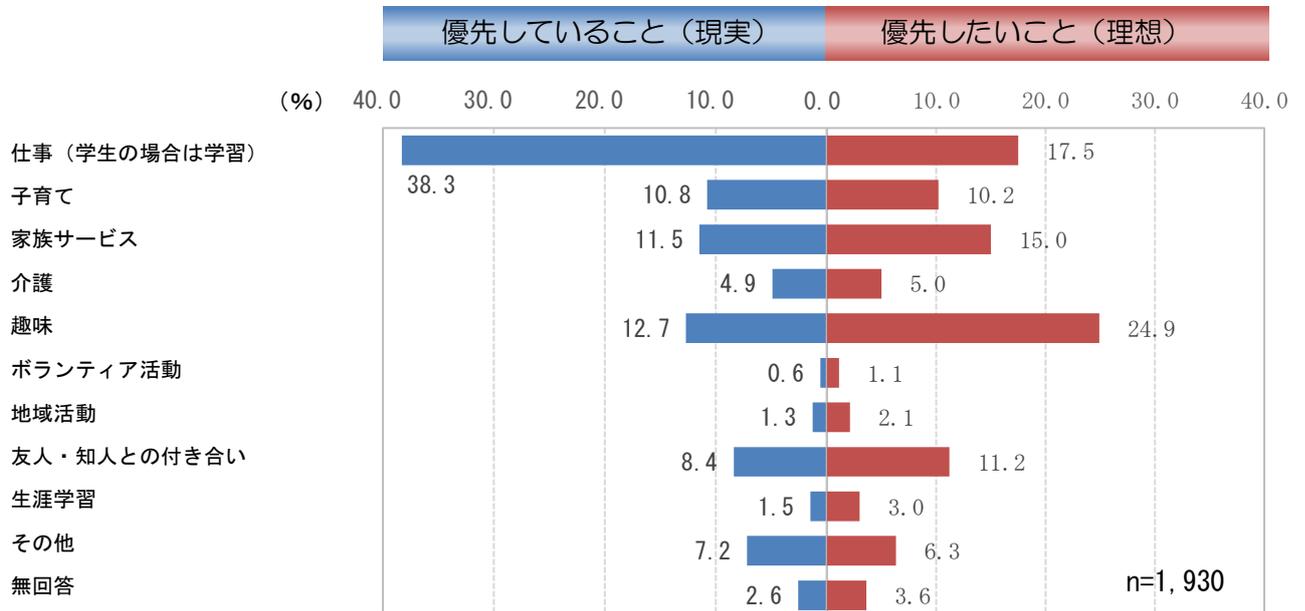
## 【日常生活の優先順位】

問 3

あなたの日常生活についてお聞きします。

3-1 現在1番優先していることは何ですか。(〇は1つ)

3-2 今後の希望として、1番優先したいことは何ですか。(〇は1つ)



### 【全体】

日常生活で優先していること（現実）は、「仕事」が38.3%で最も多く、次いで、「趣味」「家族サービス」「子育て」の順が続いている。

一方、優先したいこと（理想）は「趣味」が24.9%で最も多く、次いで、「仕事」「家族サービス」「友人・知人との付き合い」の順が続いている。

また、優先したいことの理想と現実（理想-現実）の乖離が最も大きいのは「仕事」の▲20.8%で、次いで、「趣味」12.2%、「家族サービス」3.5%の順となっており、「仕事」「子育て」は時間を減らし、「趣味」「家族サービス」「友人・知人との付き合い」「生涯学習」「地域活動」「ボランティア活動」「介護」の時間を増やしたいという傾向が見られる。

### 【地域別】

地域別上位三項目について全体と比較すると、日常生活で優先していること（現実）では、全地域で仕事が第1位となっているものの、県北地域で「子育て」が2位、離島地域で「子育て」及び「友人・知人との付き合い」が同率2位となる一方、日常生活で優先したいこと（理想）では、県南地域・県央地域・県北地域で「趣味」が1位、島原半島地域・離島地域では「仕事」が1位となるなどの違いが見られる。

また、優先したいことの理想と現実（理想-現実）の乖離が最も大きいのは全地域とも「仕事」となっている。

### 【性別】

上位三項目について比較すると、男女とも、全体と同様、日常生活で優先していること（現実）では「仕事」が、日常生活で優先したいこと（理想）では「趣味」がそれぞれ1位となる一方、男性では「家族サービス」が理想で3位に、女性では「子育て」が現実、理想とも2位となるなどの違いが見られる。また、「子育て」について、女性は男性より10ポイントほど高くなっている。

### 【年齢別】

上位三項目について比較すると、全体と同様、日常生活で優先していること（現実）では69歳以下の各世代で「仕事」が1位となっているものの、「70～79歳」では「趣味」が、「80歳以上」では「友人・知人との付き合い」がそれぞれ1位に、また、「20～29歳」「30～39歳」「40～49歳」では「子育て」が、「20歳未満」では「友人・知人との付き合い」がそれぞれ2位となっている。一方、日常生活で優先したいこと（理想）では、全体と同様、50～79歳までの各世代で「趣味」が1位となっているものの、「20歳未満」「20～29歳」では「仕事」が、「30～39歳」「40～49歳」では「子育て」が、「80歳以上」では「友人・知人との付き合い」がそれぞれ1位となっている。

【地域別】

県南

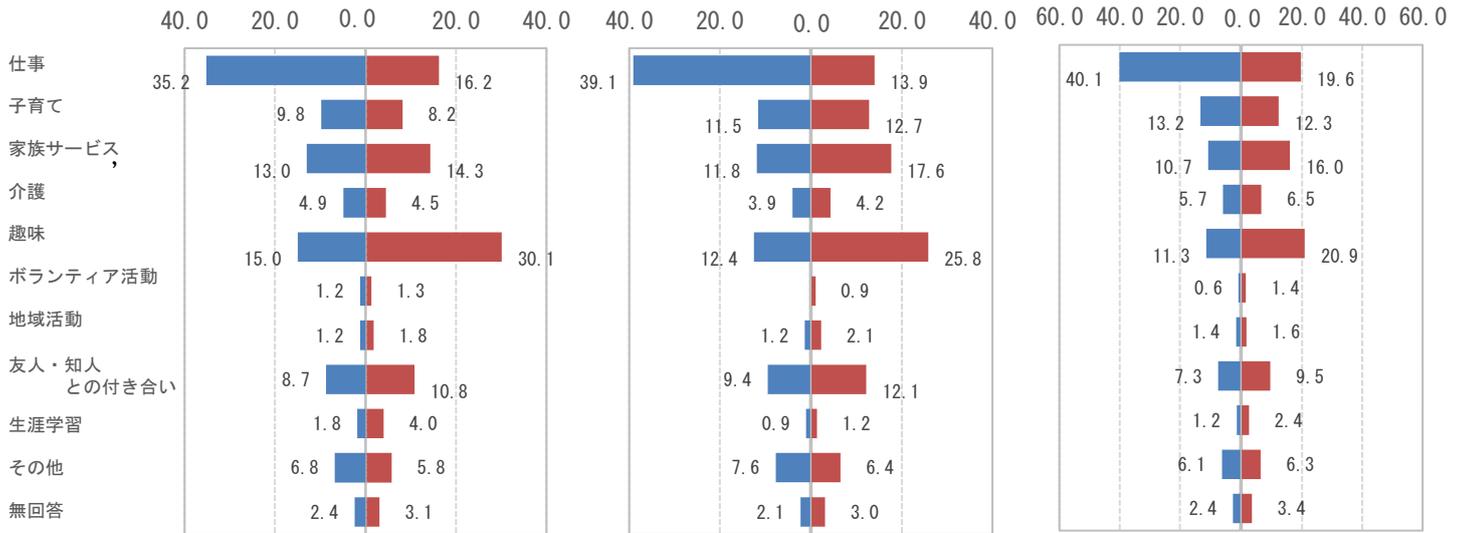
n=778

県央

n=330

県北

n=494

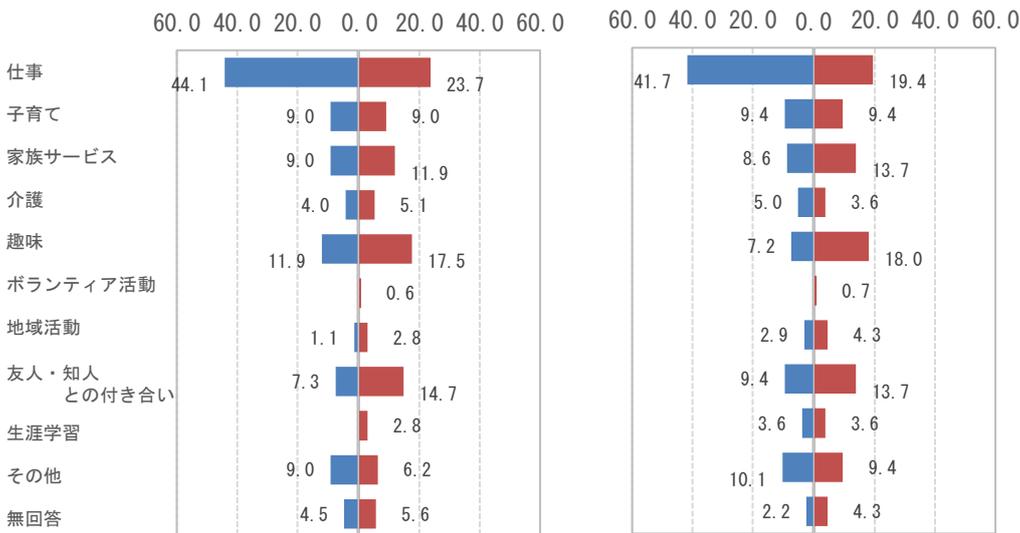


島原半島

n=177

離島

n=139



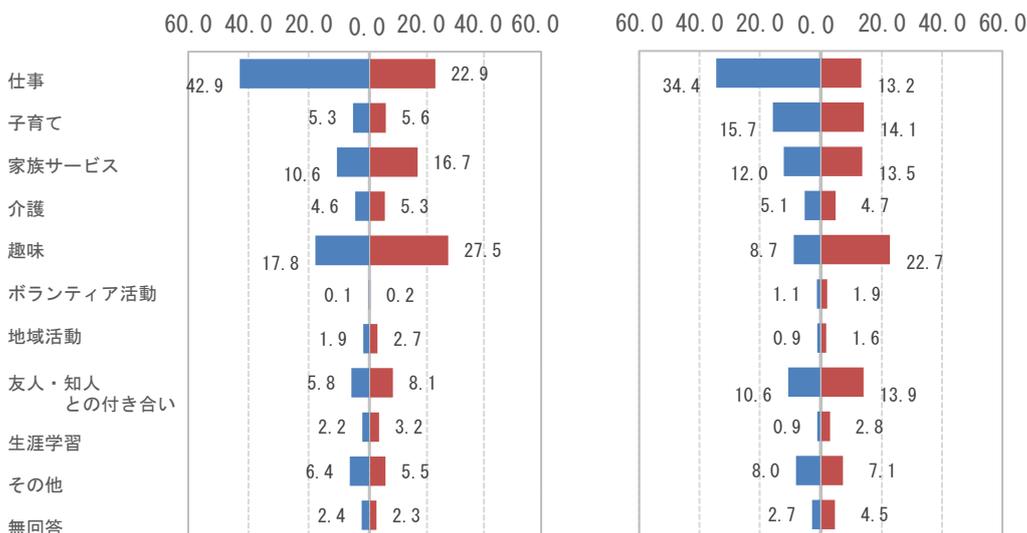
【性別】

男性

n=876

女性

n=1,026

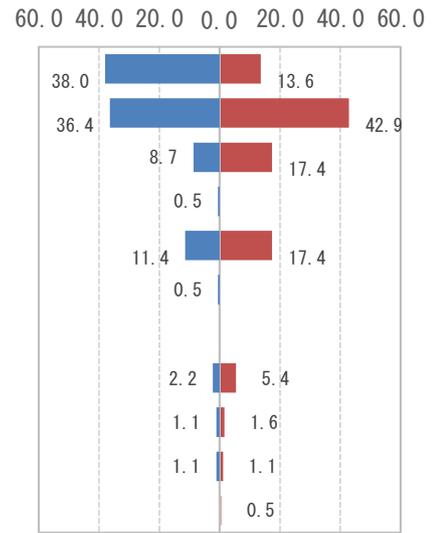
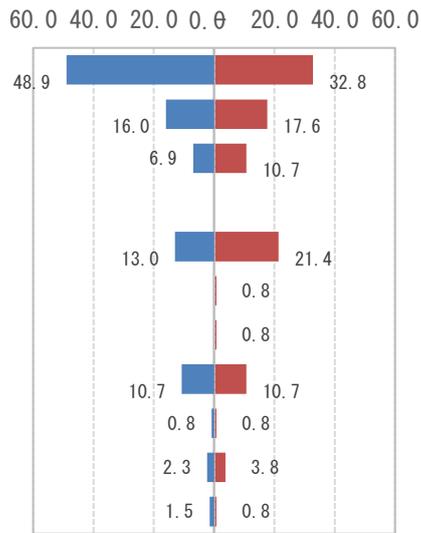
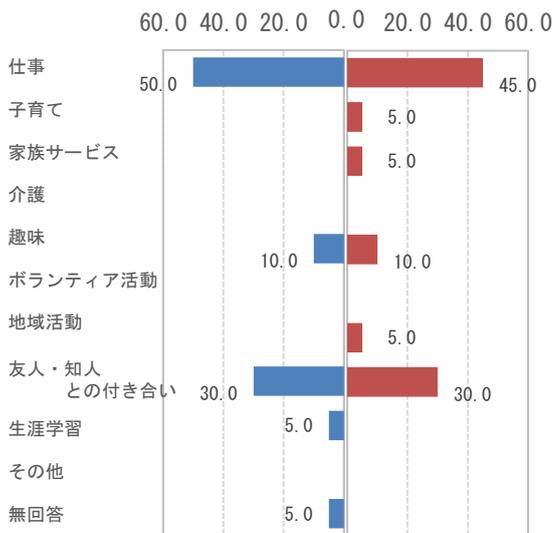


【年齢別】

20歳未満 n=20

20~29歳 n=131

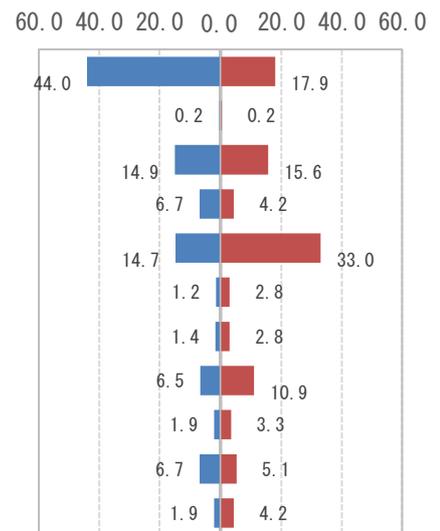
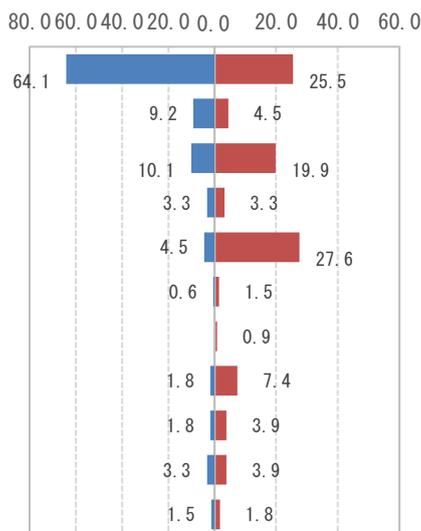
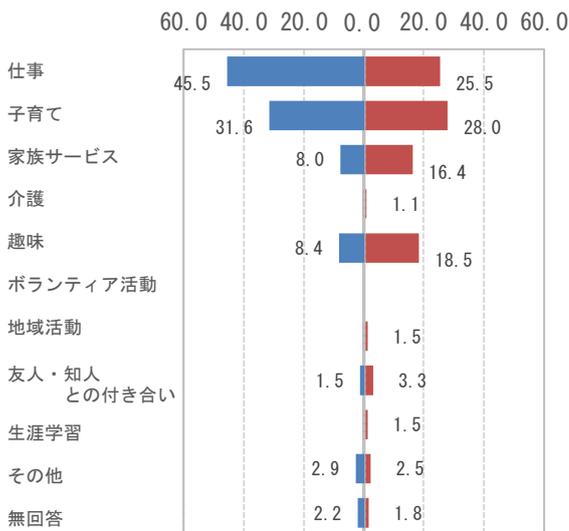
30~39歳 n=184



40~49歳 n=275

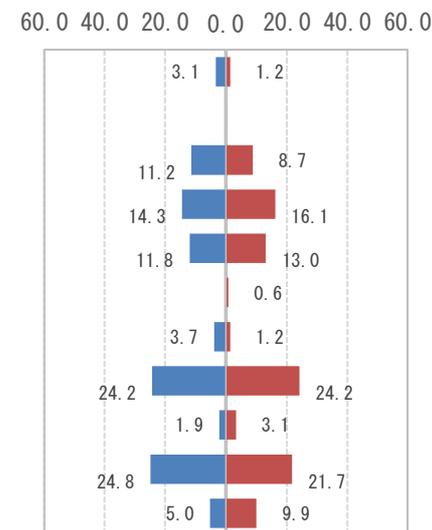
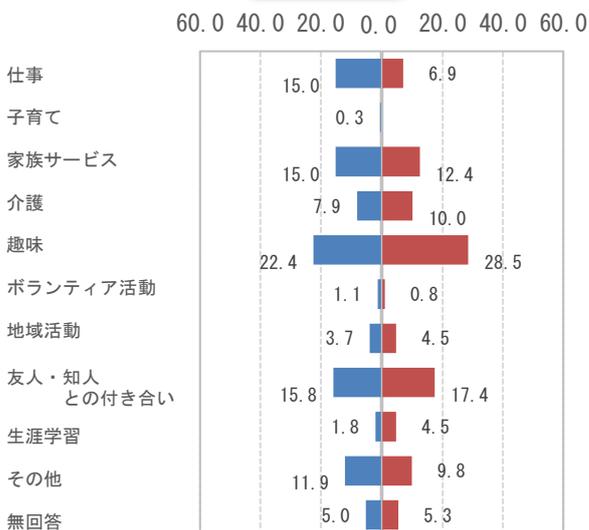
50~59歳 n=337

60~69歳 n=430



70~79歳 n=379

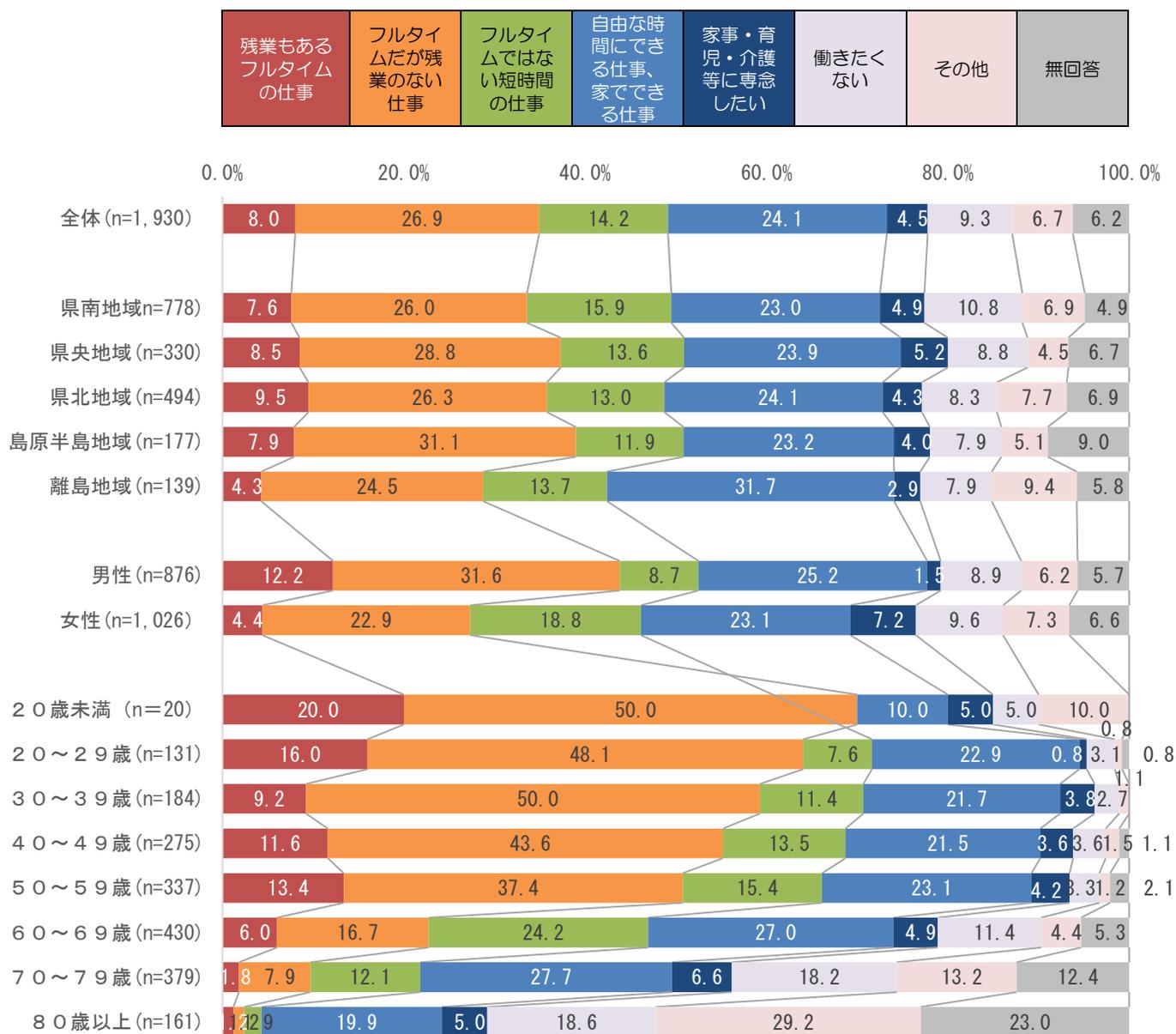
80歳以上 n=161



問 3

あなたの日常生活についてお聞きします。

3-3 あなたが希望する働き方はどのような形態ですか。(〇は1つ)



〔全体〕

希望とする働き方は、「フルタイムだが残業のない仕事」が26.9%で最も多く、次いで、「自由な時間にできる仕事、家でできる仕事」24.1%、「フルタイムではない短時間の仕事」14.2%の順で続いている。

〔地域別〕

県南地域・県央地域・県北地域・島原半島地域で「フルタイムだが残業のない仕事」が最も多く、島原半島地域では31.1%となっている。また、離島地域では、「自由な時間にできる仕事、家でできる仕事」が最も多い。

〔性別〕

女性は「残業もあるフルタイムの仕事」が男性よりも7.8ポイント低く、「フルタイムではない短時間の仕事」が男性よりも10.1ポイント高くなっている。

〔年齢別〕

60歳未満の年代では、フルタイムでの仕事（残業有+残業無）を希望する割合がいずれの世代とも50%を超えており、「20～29歳」（20歳未満は参考値）はその割合が64.1%となっている。また、フルタイムでの仕事（残業有+残業無）の割合が「60～69歳」を境に50%を下回り、「働きたくない」がいずれの世代とも10%を超えている。

## 2. 県政全般の満足度・重要度

県の政策に対する県民の意向による施策の重要度を定期的に把握し、今後の県政運営のための基礎資料とするため、県の政策における満足度と重要度についてお尋ねしました。

今回の調査では、県民の考える政策の重要度の上位項目は、前回調査と比べ項目の入れ替わりや順位の変動はほぼありませんでした。

また、県政の総合的な満足度は、満足度、不満度とも減少し、どちらともいえないが約6割を占めています。

### 【県政項目別満足度】

問 4

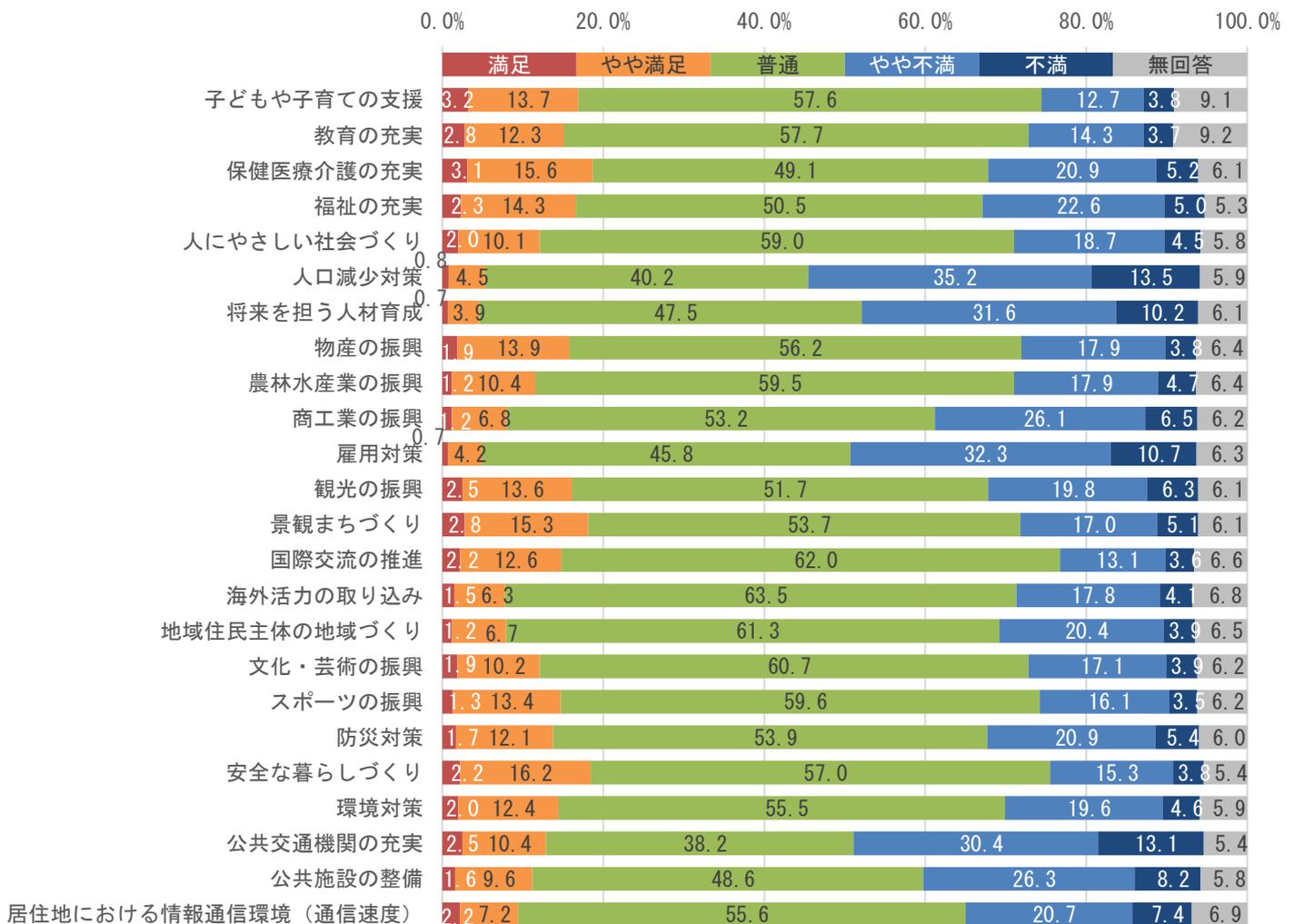
あなたが考える各項目の評価を5.満足⇔1.不満の中から選んで1つ〇をつけてください。

県政の24分野について、それぞれの満足度を聞いた結果は以下のとおり。

項目別の満足度（「満足」＋「やや満足」）は、「保健医療介護の充実」が18.7%で最も高く、次いで「安全な暮らしづくり」が18.4%、「景観まちづくり」が18.1%、「子どもや子育ての支援」が16.9%、「福祉の充実」が16.6%と続いている。

一方、不満度（「不満」＋「やや不満」）は、「人口減少対策」が48.7%で最も高く、次いで「公共交通機関の充実」が43.5%、「雇用対策」が43.0%、「将来を担う人材育成」が41.8%、「公共施設の整備」が34.5%で続いている。

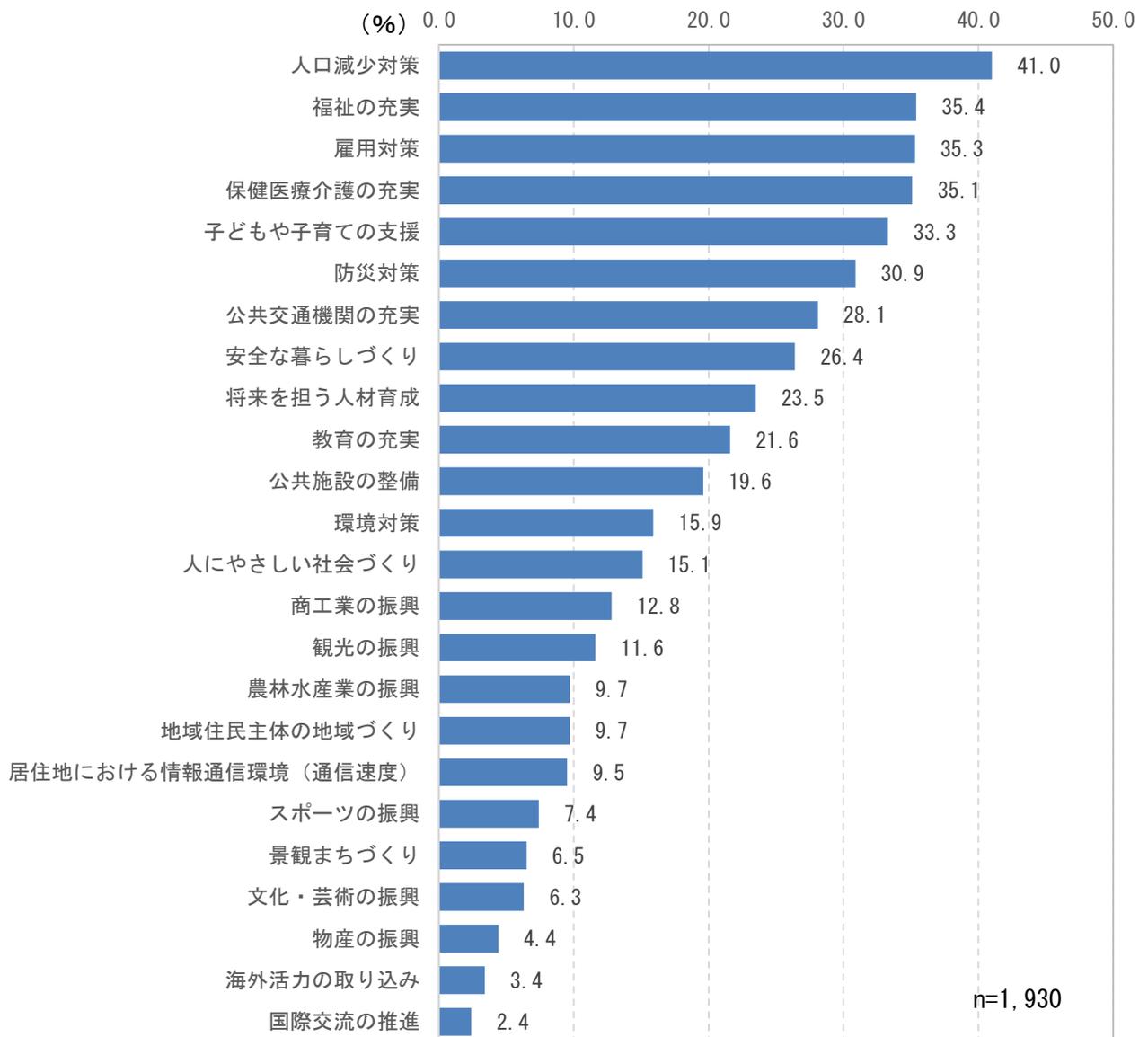
満足度が不満度を上回ったのは「子どもや子育ての支援」の項目のみであった。



問5

あなたは、今後、県がどのような分野に力を入れていくべきだと思いますか。  
 (問4の1～24の中から5つまで選んで回答欄に数字を記入してください)

【重要度の高い順】



〔全体〕

今後、県が力を入れていくべき分野としては「人口減少対策」が41.0%で最も多く、次いで、「福祉の充実」35.4%、「雇用対策」35.3%、「保健医療介護の充実」35.1%、「子どもや子育ての支援」33.3%の順で続いている。

【地域別】

県南 n=778

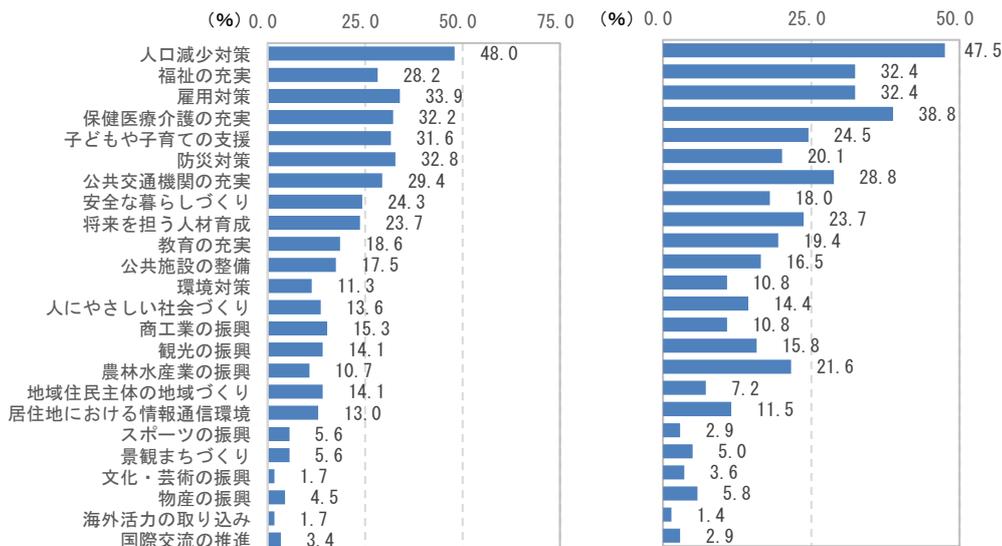
県央 n=330

県北 n=494



島原半島 n=177

離島 n=139



【地域別】

上位5項目における地域別での全体の傾向との相違については、県南地域は「雇用対策」が2位、「福祉の充実」が3位、「子どもや子育ての支援」に代わり「防災対策」が5位、県央地域は「子どもや子育ての支援」が1位に繰り上がり、県北地域は「保健医療介護の充実」が3位、「子どもや子育ての支援」が4位となっており、島原半島地域は「雇用対策」が2位「防災対策」が3位に入っている。

離島地域は「保健医療介護の充実」が2位に繰り上がっている。また、「農林水産業の振興」が他地域よりも10ポイント以上高くなっている。

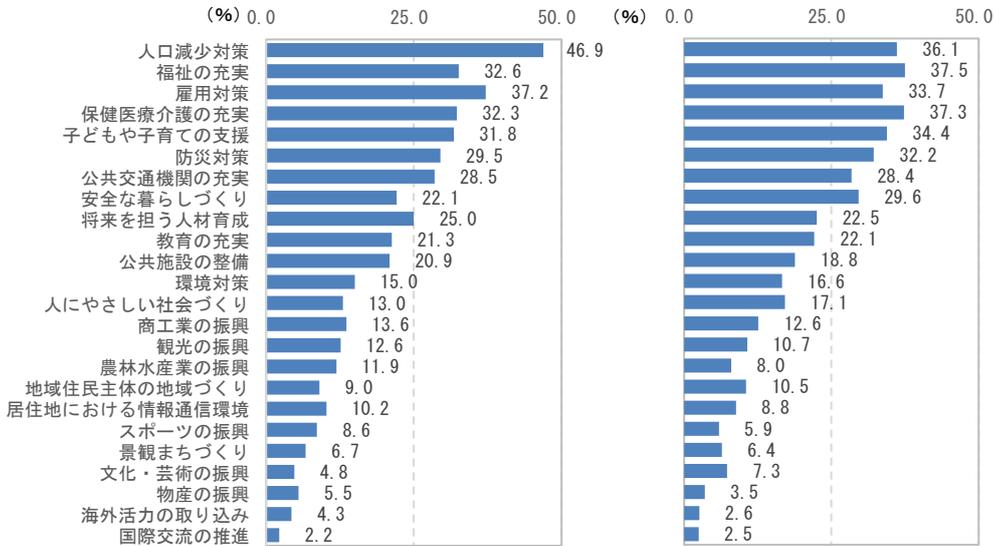
【性別】

男性

n=876

女性

n=1,026



〔性別〕

上位5項目における全体の傾向との相違については、男性では「福祉の充実」と「雇用対策」の順位が入れ替わっており、女性では「福祉の充実」が1位、「保健医療介護の充実」が2位に繰り上がっている。

【年齢別】

20歳未満

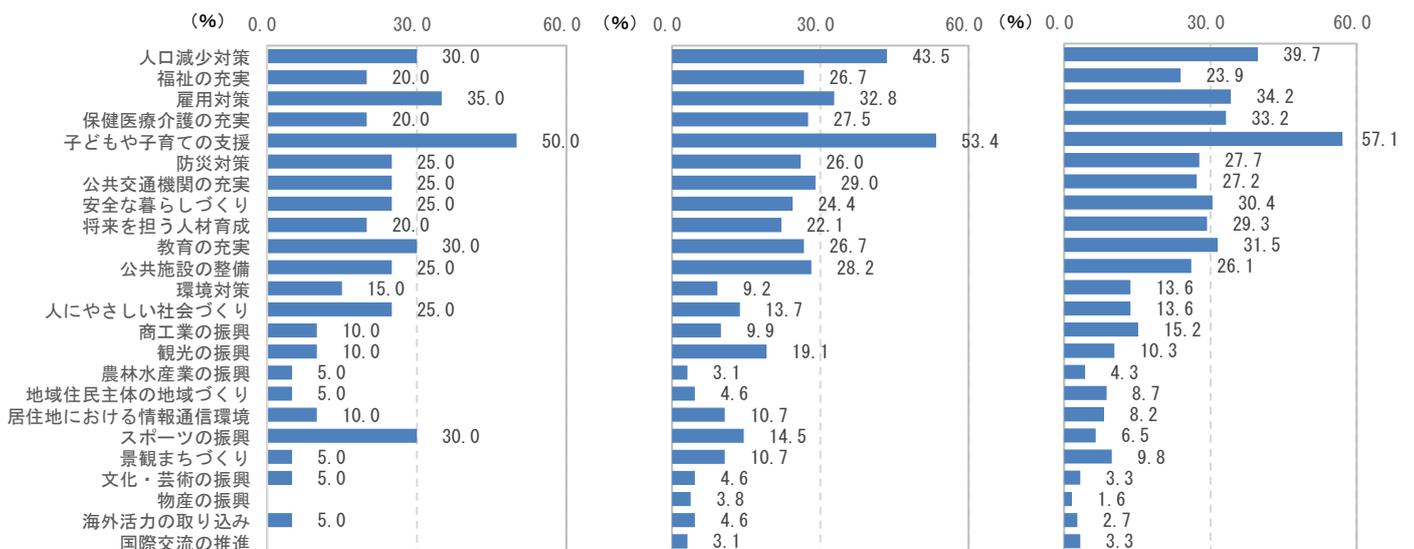
n=20

20~29歳

n=131

30~39歳

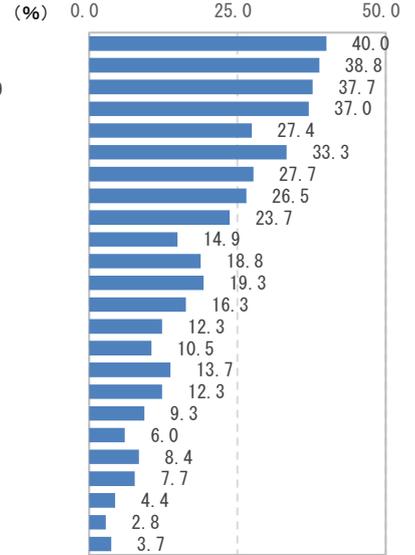
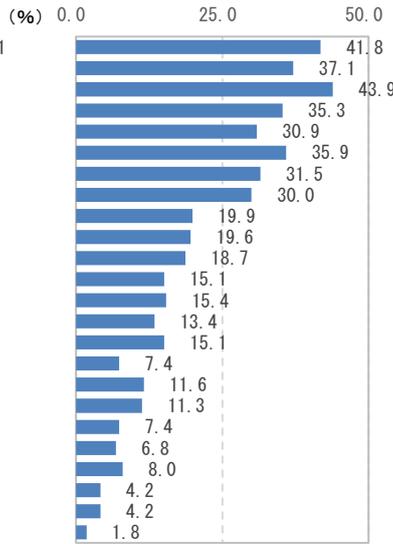
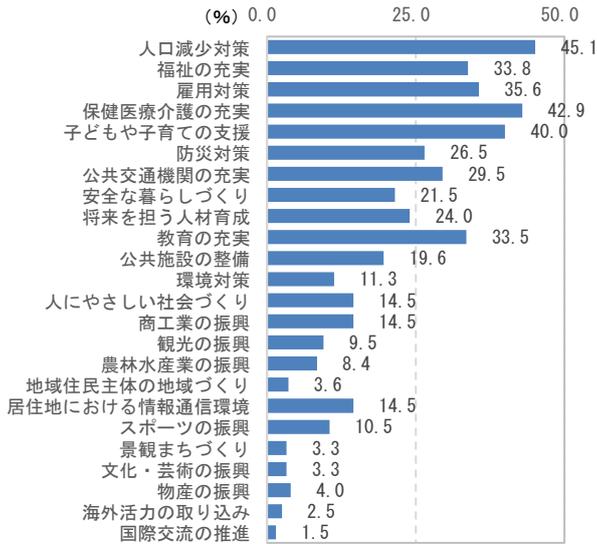
n=184



40~49歳 n=275

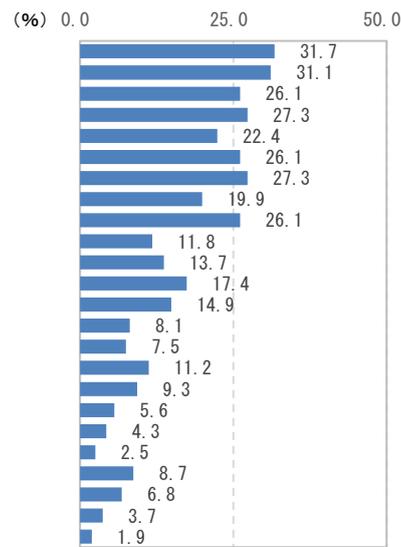
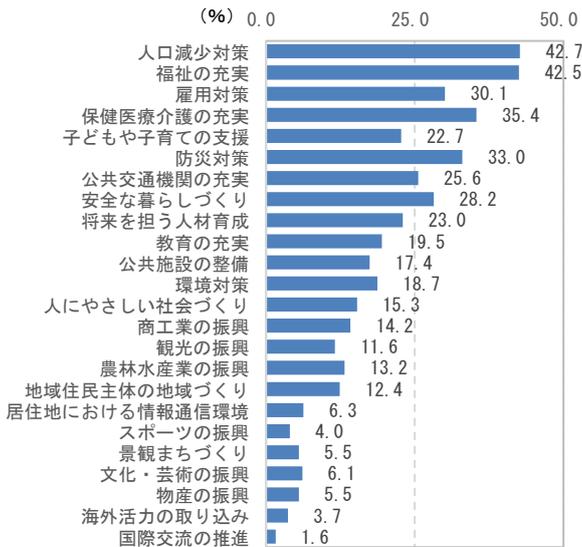
50~59歳 n=337

60~69歳 n=430



70~79歳 n=379

80歳以上 n=161

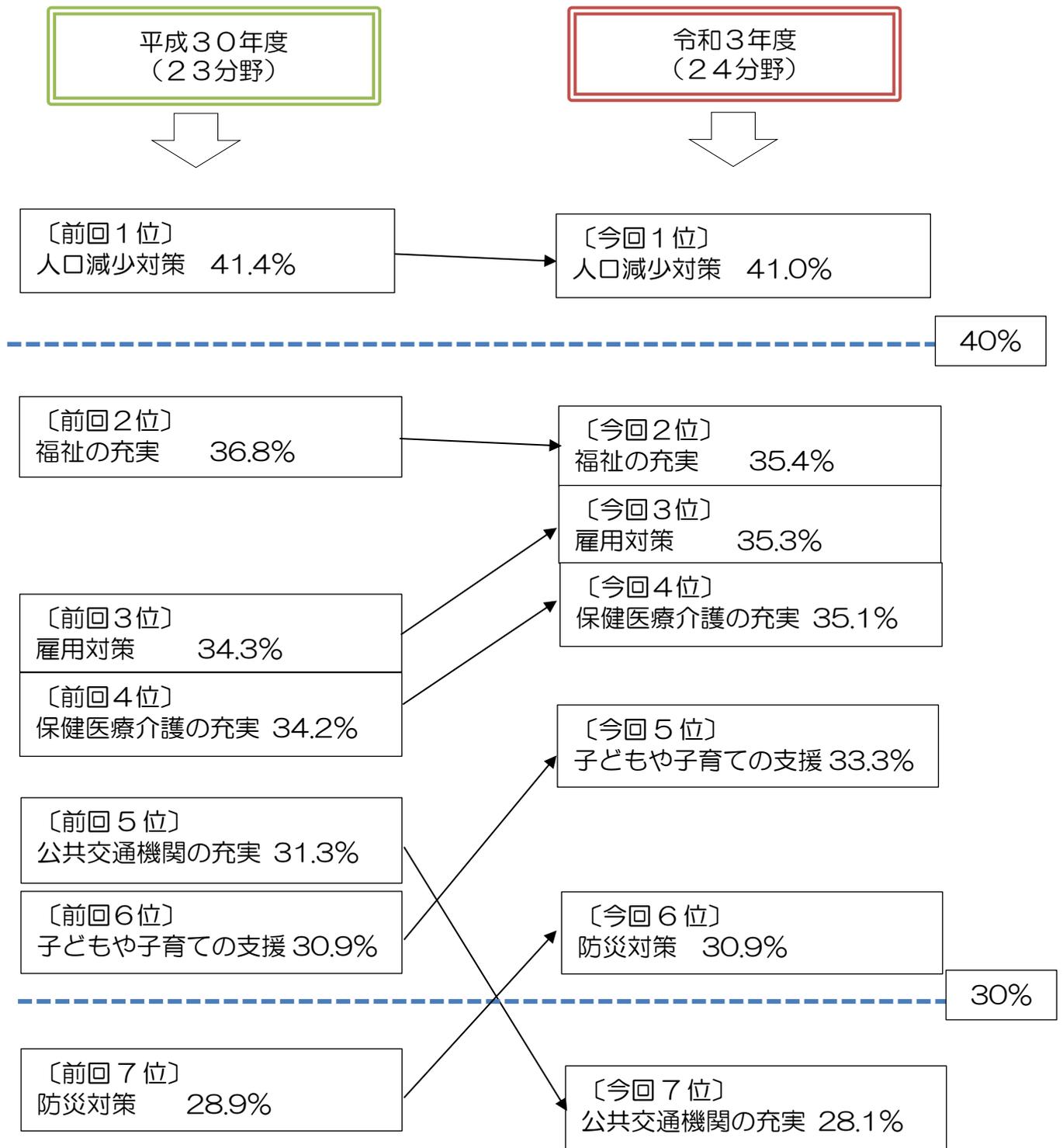


〔年齢別〕

年齢の上昇に伴い「子どもや子育ての支援」の割合が低くなり、「福祉の充実」は年齢の上昇とともに増加している。

また、「雇用対策」は年齢の上昇とともに増加し、50歳代での43.9%をピークに減少、「保健医療介護の充実」も年齢の上昇とともに増加し、40歳代での42.9%をピークに減少傾向にある。

【「今後力を入れていくべき分野」上位項目の前回調査との比較】



「今後力を入れていくべき分野」は、上位5項目のうち4項目は順位の変動なく「人口減少対策」が1位、「福祉の充実」は2位、「雇用対策」が3位、「保健医療介護の充実」が4位、前回6位の「子どもや子育ての支援」は5位に順位を上げる一方、前回5位の「公共交通機関の充実」が7位と順位を下げている。

これは、有効求人倍率や出生率はほぼ横ばいで推移しているものの、若者の県外流出が依然として続くなど、人口減少・少子高齢化の現状が前回調査時点と大きな変化が見られないこと、また、昨年来よりのコロナ禍の影響により雇用や医療提供サービスへの関心が高まり関連項目の比率の増加に繋がったものと考えられる。

【県政の総合的な満足度】

問 6

県の政策の総合的な満足度をお聞かせ下さい。  
 (問4の1～24の分野の総合評価) 5.満足⇔1.不満の中から1つOをつけてください。

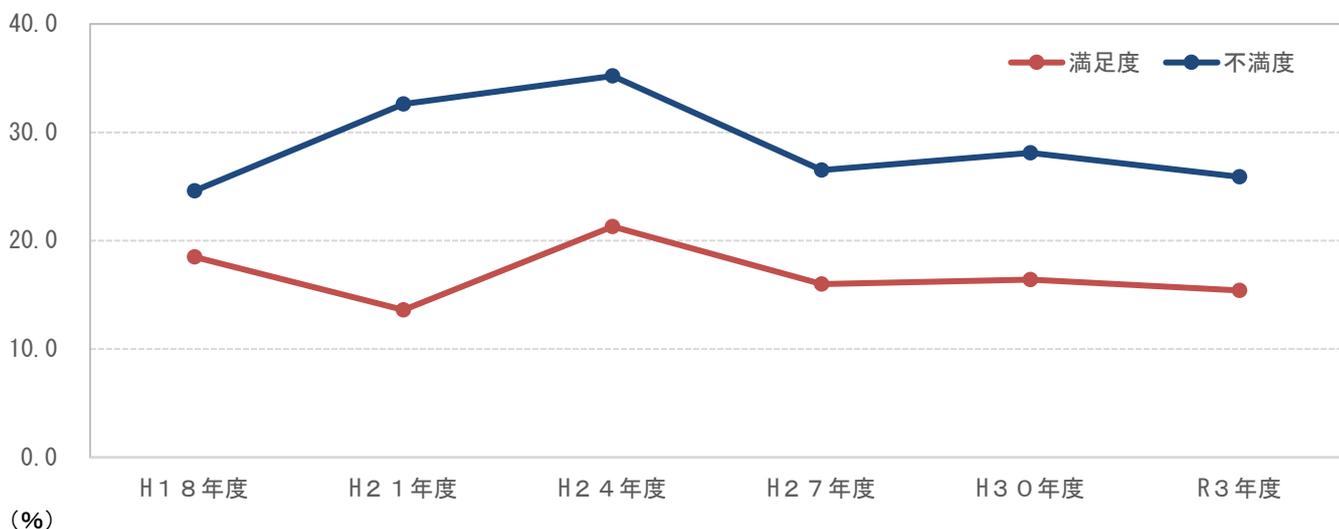
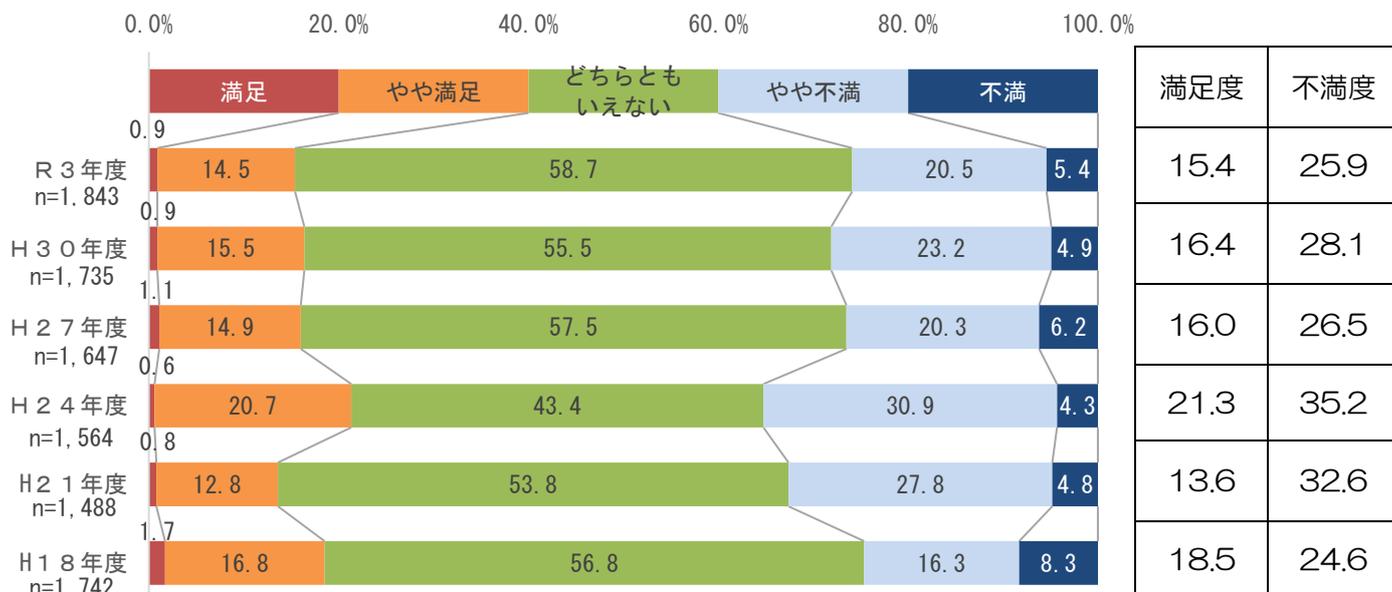
県政の総合的な満足度を前回調査と比較すると、「満足」「やや満足」の合計(満足度)と「やや不満」「不満」の合計(不満度)は満足度が1.0ポイント、不満度が2.2ポイント下がっており、「どちらともいえない」は58.7%と3.2ポイント増加している。

地域別で満足度が最も高いのは「県央地域」の20.0%、次いで「離島地域」が16.0%、「県北地域」が15.0%、「県南地域」が14.3%、「島原半島地域」が12.7%の順となっている。一方、不満度が最も高いのは「県南地域」の27.7%であった。

性別では、男性が女性よりも満足度で4.7ポイント、不満度で4.0ポイント高くなっている。

年齢別で満足度が最も高いのは20歳未満の30.0%、次いで20歳代が25.4%、80歳以上が22.4%で続いている。一方、不満度が最も高いのは40歳代の30.7%であった。

【県の政策の総合的な満足度の経年比較】



【地域別・性別・年齢別県政の総合的な満足度比較】

